佐賀県文化財調査報告書第二十三集

金剛島遺跡
源平岩洞穴遺跡
発掘調査概報

佐賀県教育委員会

佐賀県教育庁文化課

佐賀県文化財調査報告書第二十三集

金剛島遺跡
源平岩洞穴遺跡
発掘調査概報

佐賀県教育委員会

目　次

一、遺跡の所在地……（一）
二、自　然　環　境……（一）
三、調査団の組織……（二）
四、発掘調査の経過……（四）
五、発掘調査の概要……（五）
六、図　　版……（九）

発刊のことば

伊万里湾工業開発計画の一環として、伊万里市黒川地区に、名村造船所を中核とする大規模な工場団地が造成されることになった。

しかし、当該地区には、金剛島ならびに源平岩の二縄文遺跡の存在が確認されていたので、県土木部からの依頼により、県教育委員会は七ッ島周辺遺跡発掘調査委員会を組織して、工場用地造成事業に先立って遺跡の発掘調査を実施した。

金剛島遺跡は海浜の縄文遺跡として、一方、源平岩洞穴遺跡は波蝕によって形成された洞穴遺跡として、県下にその類例の少ない遺跡であって、今次の調査結果は、今後の、本県における縄文文化史研究の上で、寄与するところも大きいと考えられ、写真・図版を主とした概報ではあるが、本報告書を刊行する次第である。

なお、本調査にご協力いただいた伊万里市教育委員会、ならびに郷土研究会等の方々に厚くお礼を申しあげる次第である。

昭和四十八年三月

佐賀県教育委員会

教育長　大園　弘

一、遺跡の所在地

伊万里市黒川町　　金剛島遺跡
伊万里市黒川町　　源平岩洞穴遺跡

二、自然環境

黒川町は市の北部に位置し、沿岸部は溺れ谷によって形成された標式的なリアス式海岸で、七ッ島を中心とする島嶼群があり、伊万里湾における景勝地の一つである。

地質は細粒砂岩からなる相浦砂岩層で、金剛島遺跡はこの層上に直接生活が営まれ、源平岩洞穴遺跡は波蝕による波痕跡、即ち洞穴が生活の舞台として利用されている。

七ッ島の東、海中に突き出て現在は岬のような景観を呈している金剛島は、浦浜新田、中村新田によって陸繋島となった。従って、金剛島遺跡は島の西岸の、一番大きな入江の谷部にあって、北西の季節風を避け得る地形に位置している。この谷には現在豊かな地下水が湧出していて、この島では唯一の水田（湿田）となっているが、この水田下が遺跡となっている。

金剛島遺跡から見ると源平岩洞穴遺跡は後背地に位置しているが、当時は前者が島であったので、この源平岩洞穴遺跡も湾入の大きい入江の一隅に位置していたことになる。洞穴は南東方向に開口する。当時の汀線はどこであったかは明確ではないが、現在、この入江には湿田が存在するので、水深の浅い、ゆるやかな傾斜底をもち、しかも季節風を避け得る地形であったことが考えられる。

三　調査団の組織

イ　委員会

委員長	大園　弘	県教育委員会教育長
委員	鏡山　猛	県文化財専門委員
同	七田忠志	同
同	山崎重雄	伊万里市教育委員会教育長

ロ　事務局

局長	熊谷正門	県社会教育課長
次長	永竹　威	同　文化室長
総務	安本雪男	同　文化室長補佐
庶務	竹下　守	同　庶務係長
同	岩崎武彌	同　庶務係
同	中尾国雄	伊万里市教育委員会
同	城島　勝	伊万里市黒川公民館長

八　発掘調査員

調査主任	木下之治	県立博物館副館長
調査員	柳川俊二	県社会教育課文化室
同	柴元静雄	同
同	山本弘道	同
同	木下巧	県立博物館学芸課
同	森醇一朗	同
同	佐々木勝	県遺跡調査員
同	石隈喜佐雄	同
同	淵上茂生	有明町教育委員会主事
同	吉永直	西有田町文化財保護委員
調査補佐員	伊万里市郷土研究会	

四、発掘調査の経過

㈠　昭和三十九年プール用水堀建設中に那須久氏（伊万里市黒川町）によって当該地区が縄文時代の遺跡であることが確認され、金剛島遺跡として周知されることになった。

㈡　昭和四十六年一月、伊万里市郷土研究会によって工場用地造成地区内の遺跡確認調査が実施され、源平岩洞穴遺跡の存在が確認された。

㈢　同年三月一日から四日に県教育委員会、伊万里市教育委員会および伊万里市郷土研究会の三者合同の事前調査を実施した。

㈣　同年四月二十四日から五月二十五日まで本調査を実施した。

㈤　本調査の本部および宿舎は那須久氏の御厚意によって同氏宅とした。

五　発掘調査の概要

(一)　金剛島遺跡

現汀線から約四〇m～約七〇m距った谷の部にこの遺跡は位置し、遺跡の中心部で海抜約二mである。遺跡の中心部はプール用水堀構築中にすでに破壊湮滅していたので、堀の堤防部分、及び後背の上位に残存する水田部分を調査区とした。堤防部分を一区、水田部分を堀側より二区、三区とした。

遺物包含層は基盤である相浦砂岩層上およびその上に堆積する含細砂粒黒灰色土層であるが、層位は明確にすることはできなかった。基盤までは地表面から堤防の部分で約一m、水田部で約二mであった。尚、基盤上の含細砂粒黒色土の厚さは約二〇cmであるが、地表からこの層までの間層（含細砂黒灰土色層、含細砂灰褐色土層、含細砂灰色土層）は遺物を殆んど包含しない。

出土した遺物は次のとおりである。

石器　―　。黒曜石製ブレイド（多数）、スクレイパー（三〇）石鏃（二〇）
　　。サヌカイト製スクレイパー（五）、石斧（三）、ポイント（五）、皮はぎ（二）
　　。蛇紋岩製石斧（二）
　　。石錘（二）

土器　―　。縄文式土器片（リンゴ箱一杯）

。弥生式土器片　若干
。土師式土器片　若干
。須恵器片　若干
。瓦器片（三）
。土　錘（三）

植物質

木製銛　多数、　木　片　多数
柱　根（九）、　木の実　（二ℓ）
石　炭　若干

以上、出土した遺物から思考して、回遊してくる魚群の捕獲を目的として、短期間ずつ生活した遺構である可能性が濃い。その時期は縄文時代前期から鎌倉時代に及ぶと考えられるが、遺物から推定して縄文時代に最も長く生活の舞台として利用されていたと推定される。

従って、今回の発掘区域（約五〇〇㎡）全面にわたって出土した木製銛、木柱および木片については現段階ではどの時代に比定するかは困難である。

海浜遺跡で一般的に出土する骨角製の漁撈具は一本も確認することはできなかった。このことは、五㎝～一ｍの長さの銛で捕獲できる程の魚群が沿岸に近寄り漁撈が極めて容易であったことを示唆していると言えよう。

（二）源平岩洞穴遺跡

ここは三月の予備調査の段階で確認された遺跡で、相浦砂岩層の断崖が波頭によって最大奥行六ｍ、幅一五ｍに亘る嘴

状の波痕を形成した洞穴遺跡である。この遺跡は南面する谷間の奥にあって海抜は一五mである。

今回は洞穴部とその前面（前庭）を調査したが、洞穴部は最近まで使用された形跡があって、中央部で土が掘りかえされており、一方、前庭部はミカン畑に開墾する際に地層が撹乱されていた。従って、文化層序を明確にとらえることは困難であった。しかし、基盤上（相浦砂岩層）の遺物はほぼ原位置であると考えられる。

この遺跡で注目すべき遺構として四基の土壙墓を確認した。ロ・ハ・ニ号は並列している。

イ号土壙墓、幅約二〇cm、長さ約五〇cmの長方形で、深さ約二〇cmに基盤を掘り込んである。基盤上から人歯一本と人骨一片が出土した。その他の遺物は出土しなかったので、その構築の年代は不明である。

ロ号土壙墓、直径約八〇cmの不整円形で、基盤を約四五cm摺鉢状に掘り込んでいる。基盤上から御領式のつぼが出土した。

ハ号土壙墓、直径約一一〇cmの不整円形で底面は直径約七五cmの不整円形、深さ約三〇cmである。出土遺物はない。

ニ号土壙墓、直径約一一〇cm、底面直径約八〇cmの不整円形で、基盤を約四五cm掘り込んでいる。出土遺物はない。

前庭部に縄文時代から弥生時代までの土器片をふくむ貝殻の堆積が確認された。前庭部は生活廃棄物の捨て場であったことが考えられる。

洞穴に向って前庭部左側崖に階段状の岩場が発見されたが通路に使用されたものかどうかにわかに断定し難い。

この遺跡からの出土遺物は次のとおりである。

土　器

縄文時代前期土器片　　多数

縄文時代中期土器片　多数
縄文時代後期土器片　多数
弥生時代土器片　若干
土師器土器片　若干
須恵器土器片　若干

石器

黒曜石製ブレイド　（約三〇〇）
〃　スクレイパー　（三〇）
〃　石鏃　（三〇）
サヌカイト製スクレイパー　（二）
頁岩製石斧　（二）
〃　石のみ　（一）
蛇紋岩製石斧　（二）
〃　石釜片　（二）

図

版

図1 遺跡所在地図(1)　　① 金剛島遺跡

② 源平岩洞穴遺跡

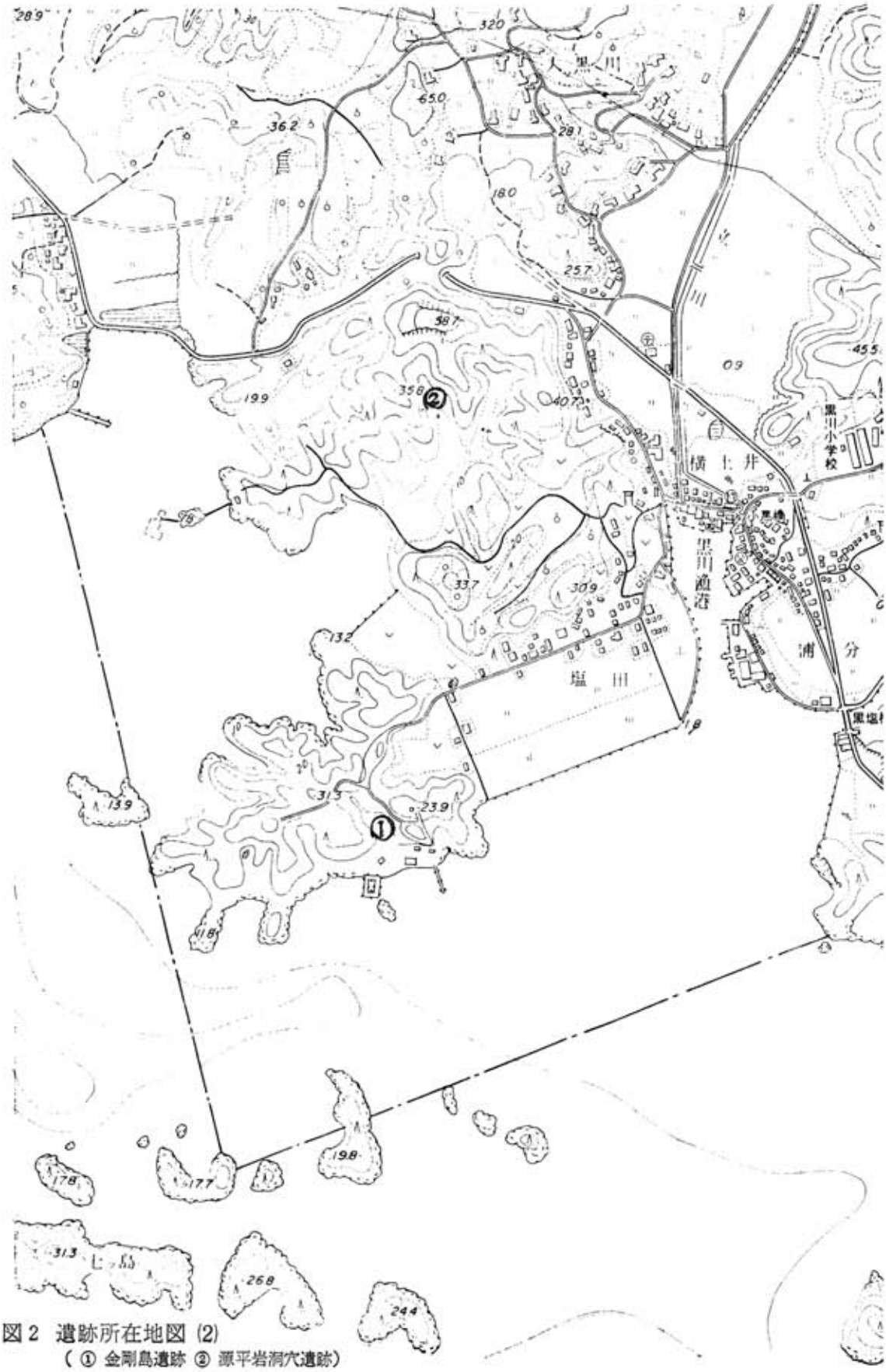


図2　遺跡所在地図 (2)
（① 金剛島遺跡 ② 源平岩洞穴遺跡）

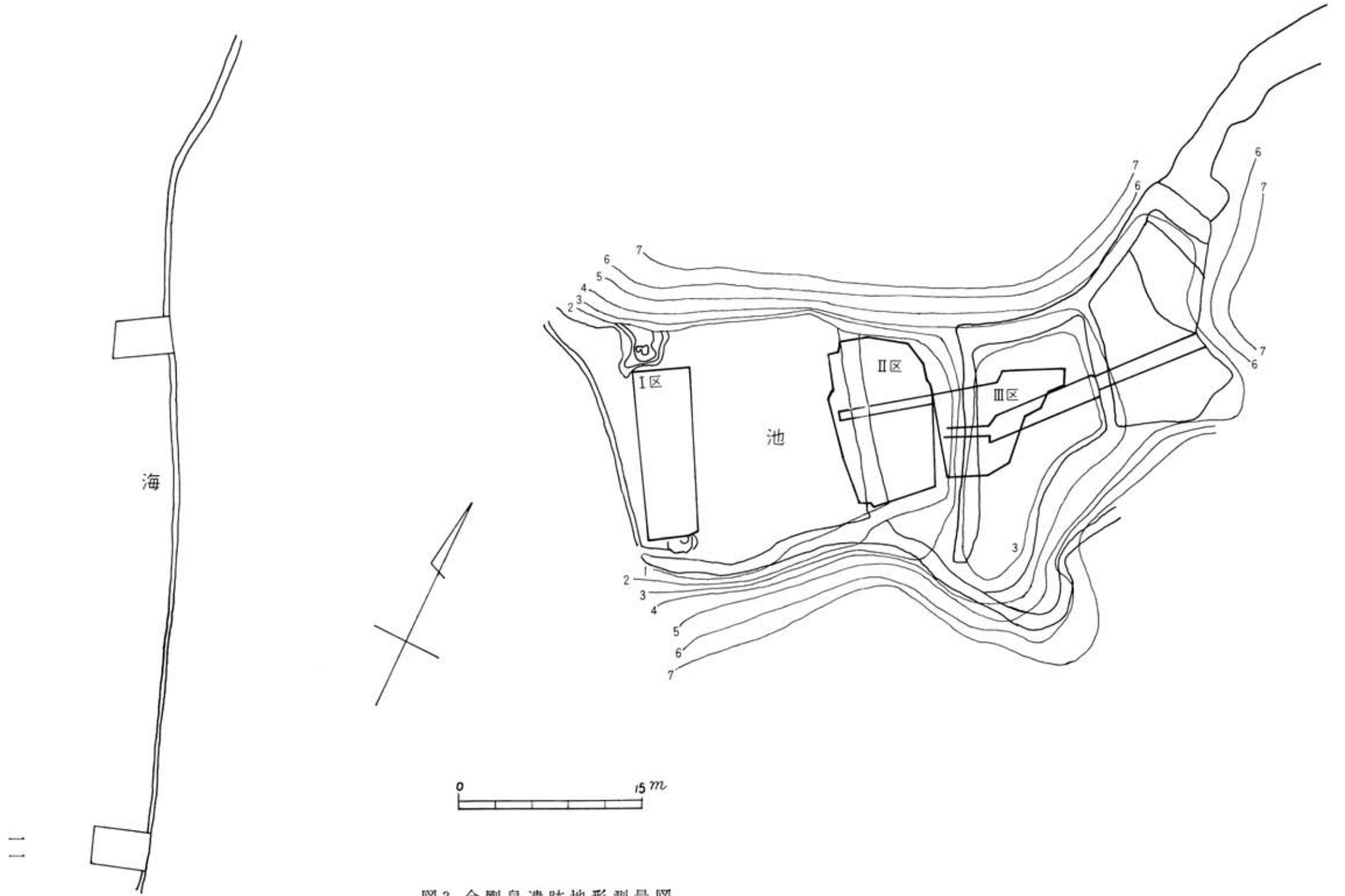
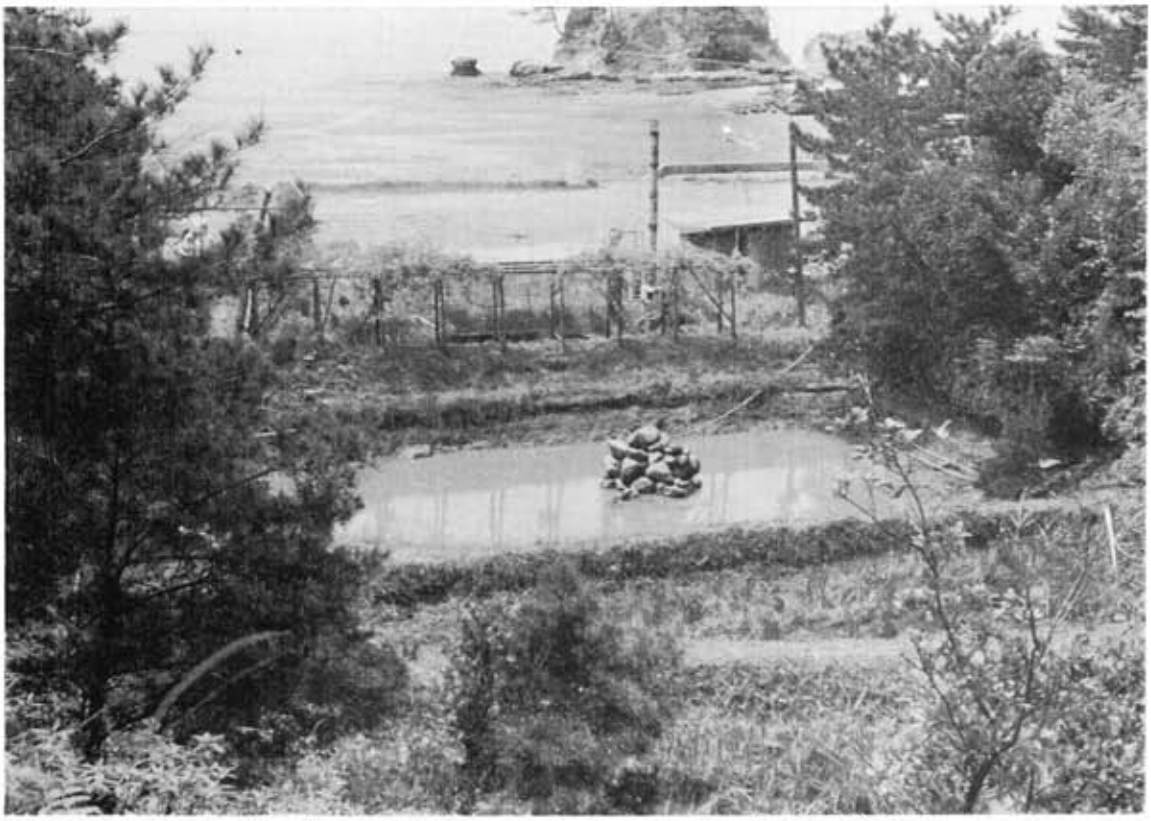


図3 金剛島遺跡地形測量図

七ッ島より金剛島遺跡を望む

海側より第二区を望む（水田石垣）（金剛島）

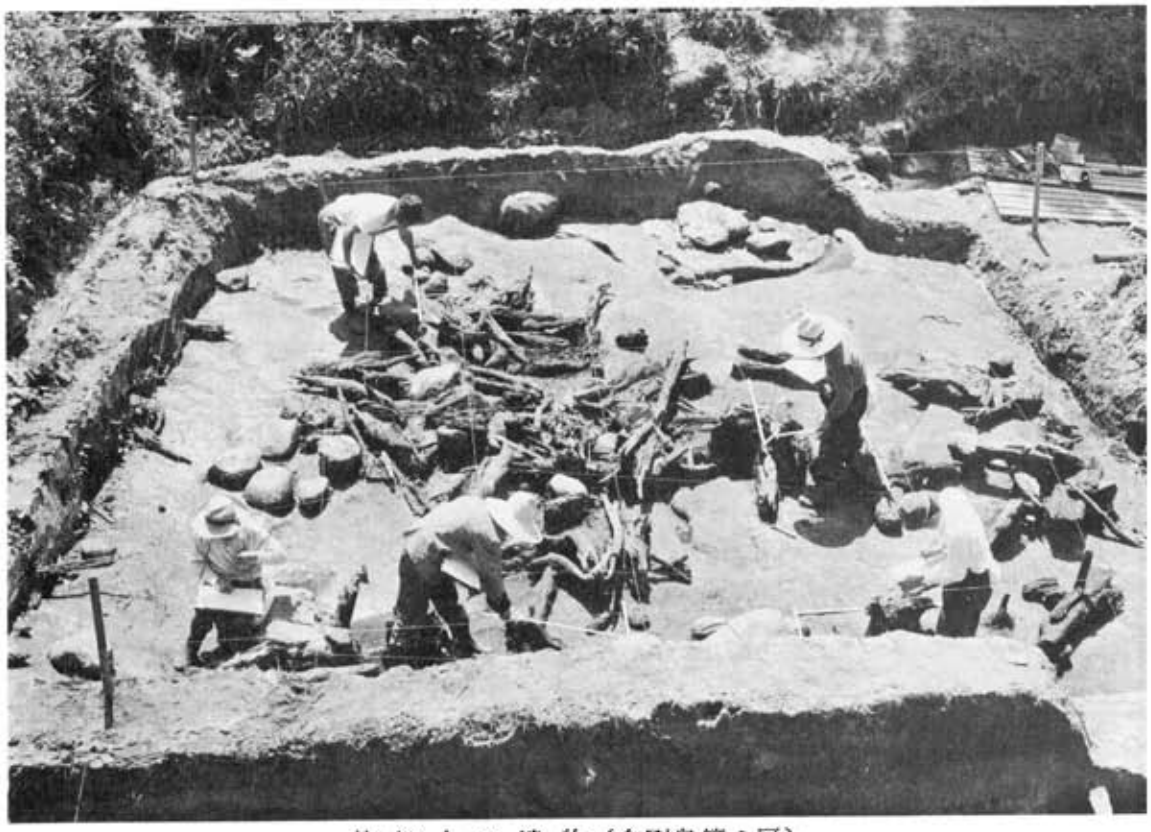


谷の奥より海を臨む、中央はプール用水堀（金剛島）

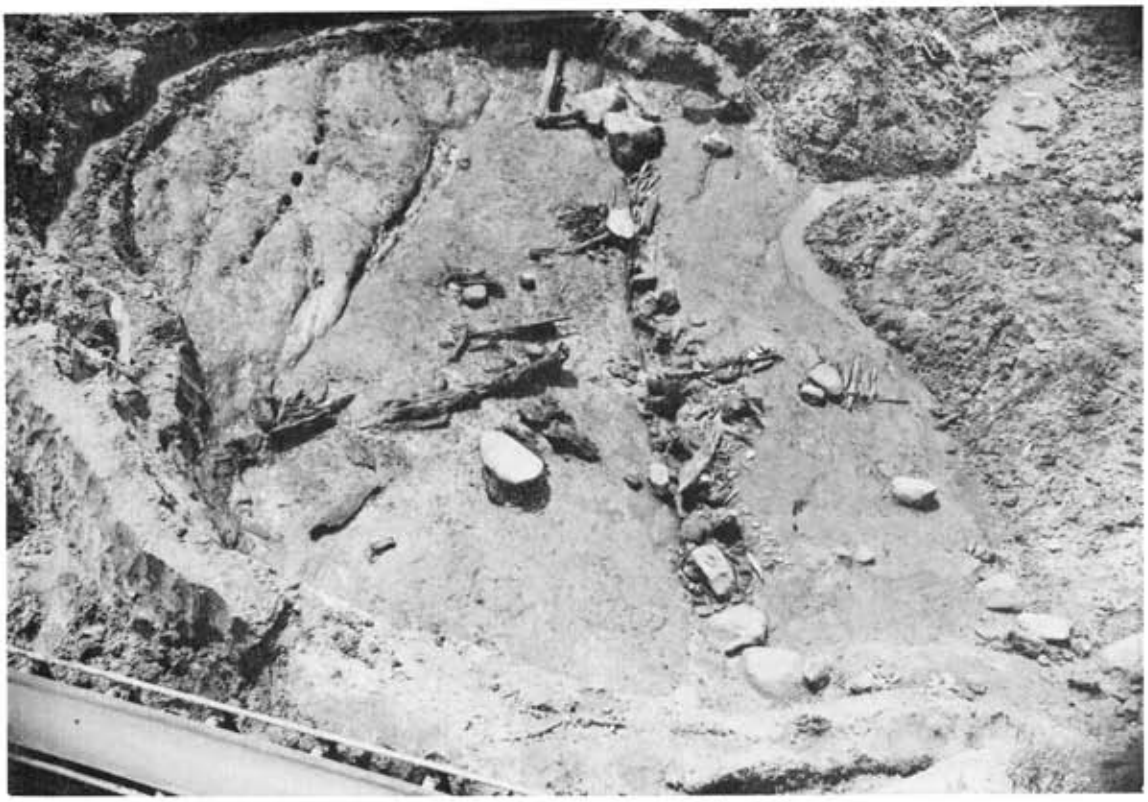
藤棚の部分が第一区（堀堤防）（金剛島）

発　掘　作　業　（金剛島）

発　掘　作　業　（金剛島第２区）



基盤上の遺物（金剛島第2区）



基盤上の遺物（金剛島第3区）

木片出土状況（金剛島第2区）

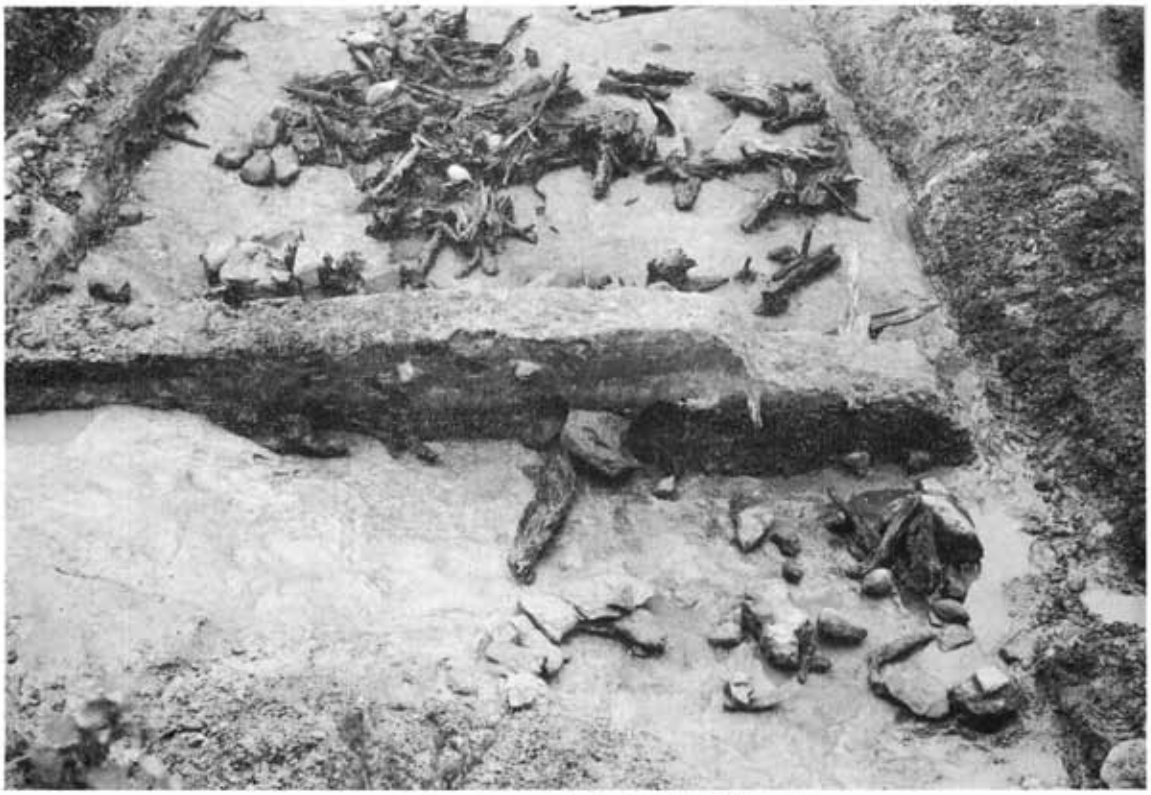
同　　上

杭　出　土　状　況（金剛島第２区）

杭　出　土　状　況（金剛島第２区）

遺物出土状況（金剛島第２区）

遺物出土状況（金剛島第２区―中央は観察用あぜ）



観察用あぜと遺物（金剛島第２区）

遺物出土状況（金剛島第３区）

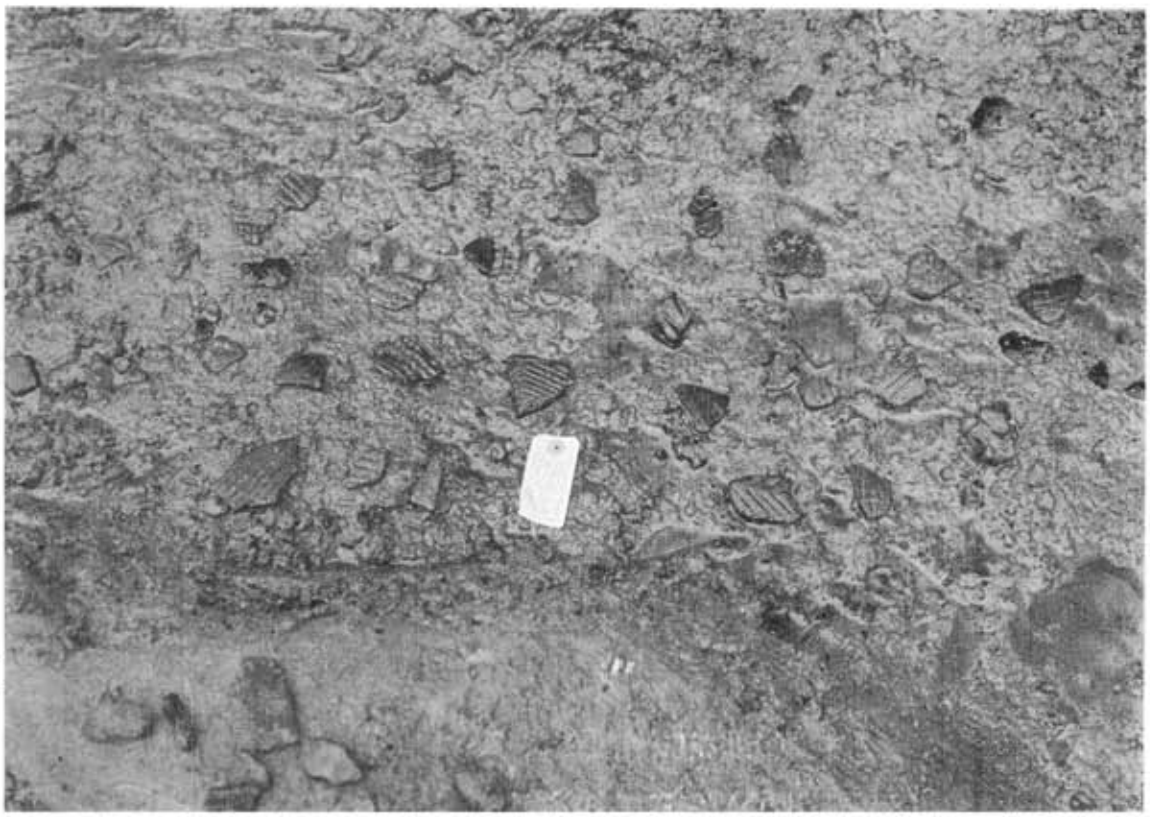
調査区全景（金剛島第1区）

遺物出土状況（金剛島第1区）

土 器 出 土 状 況（金剛島第１区―基盤層上）

土 器 出 土 状 況（金剛島第１区―基盤層上）

土 器 出 土 状 況（金剛島第１区一基盤層上）



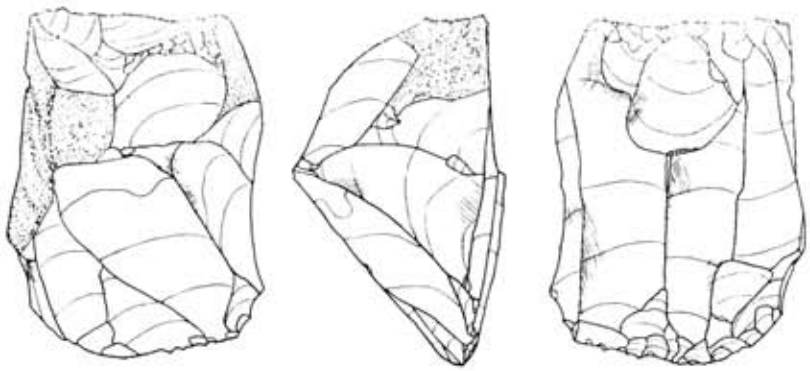
土器出土状況（金剛島第１区一基盤層上）

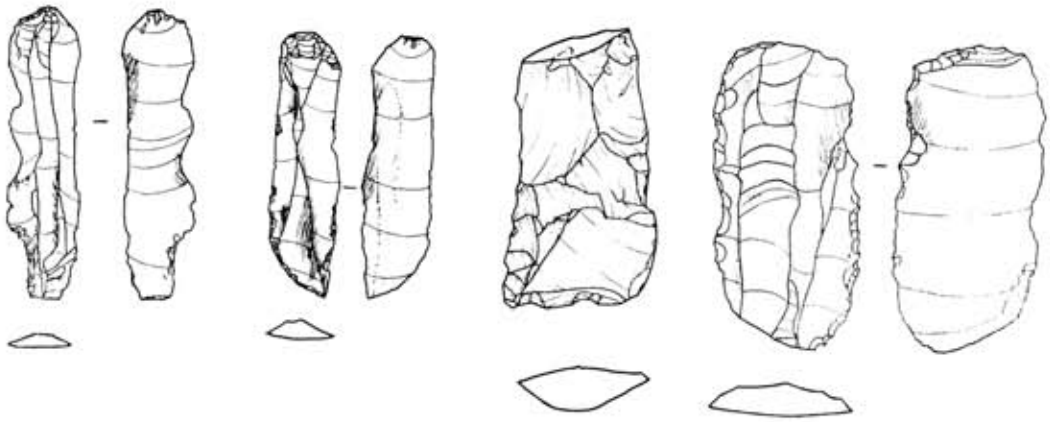
用水堀堤防の地層断面（金剛島第１区）

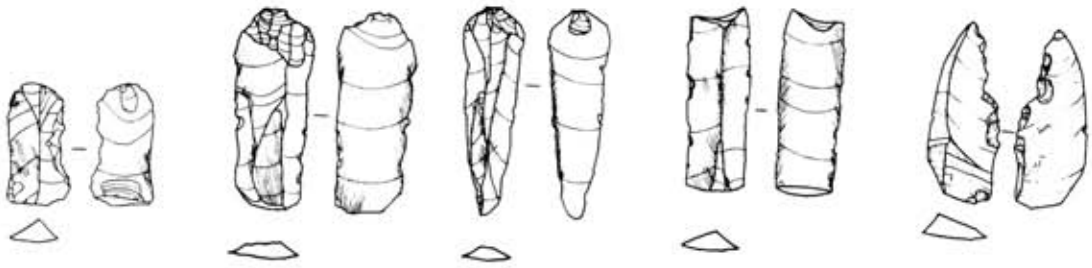
土錘出土状況（金剛島第１区一基盤層上）

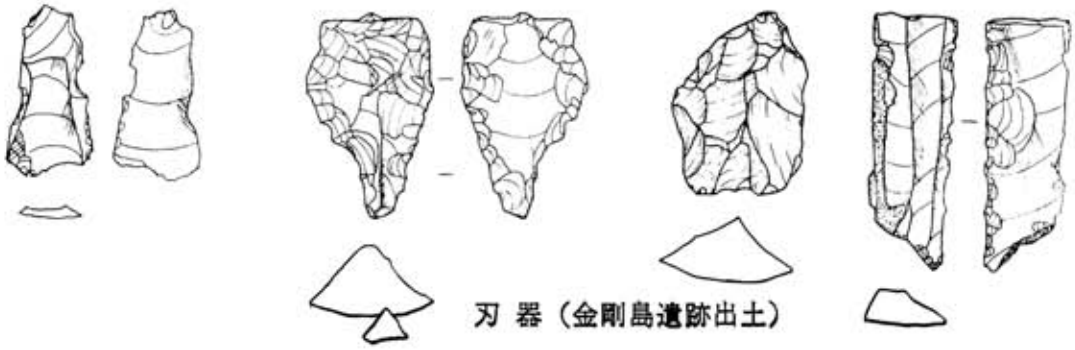
曽畑式土器出土状況
（金剛島第１区一基盤層上）

不定形石核（金剛島遺跡出土）

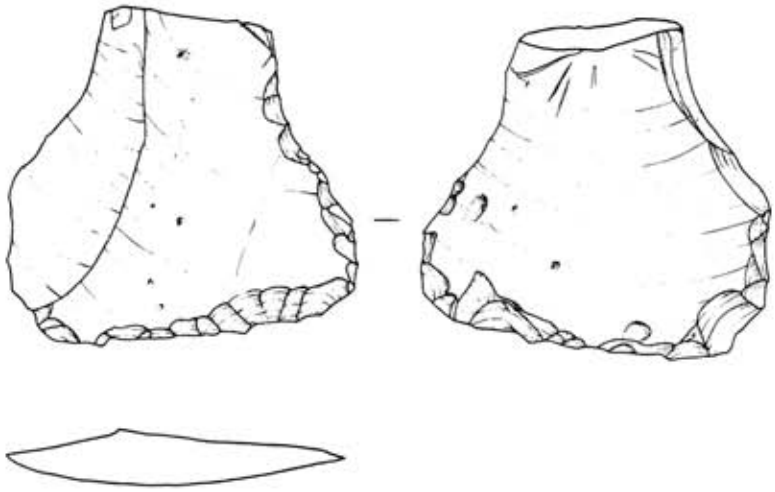


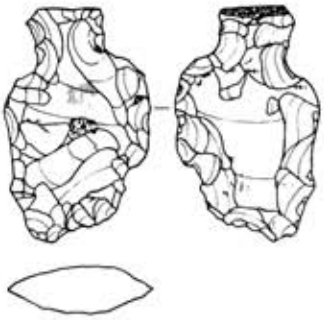


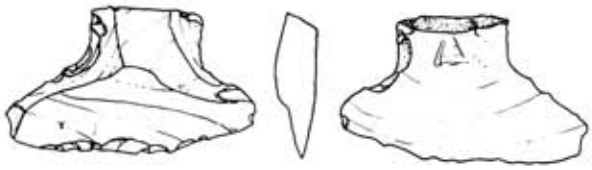




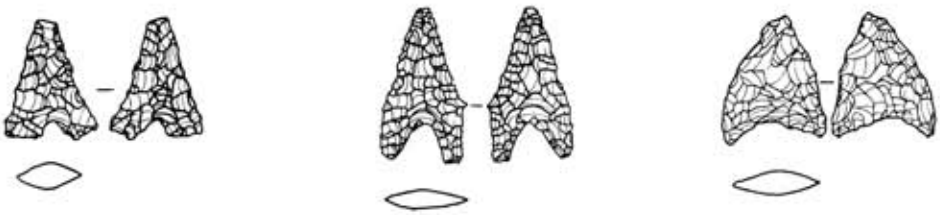
刃 器（金剛島遺跡出土）

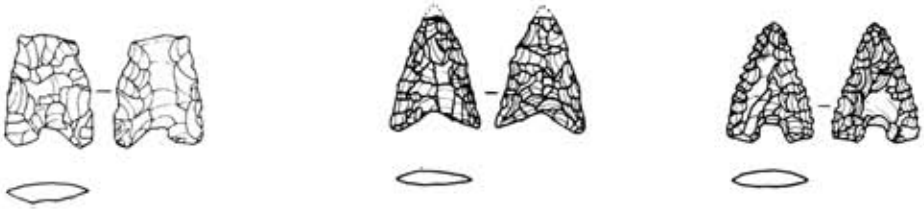




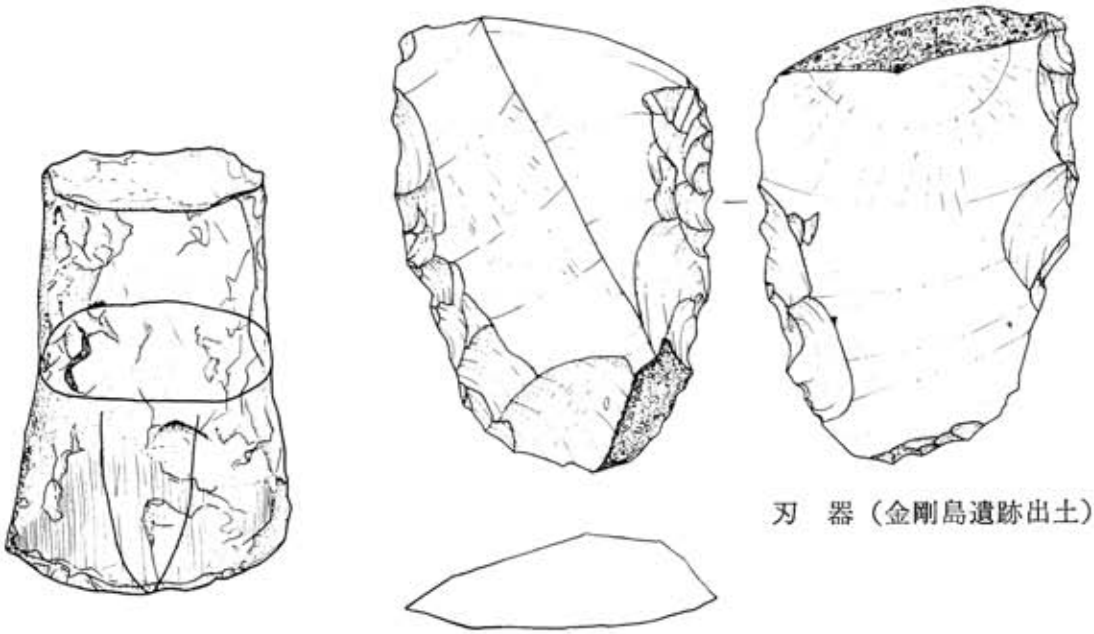


サヌカイト製石匙（金剛島遺跡出土）

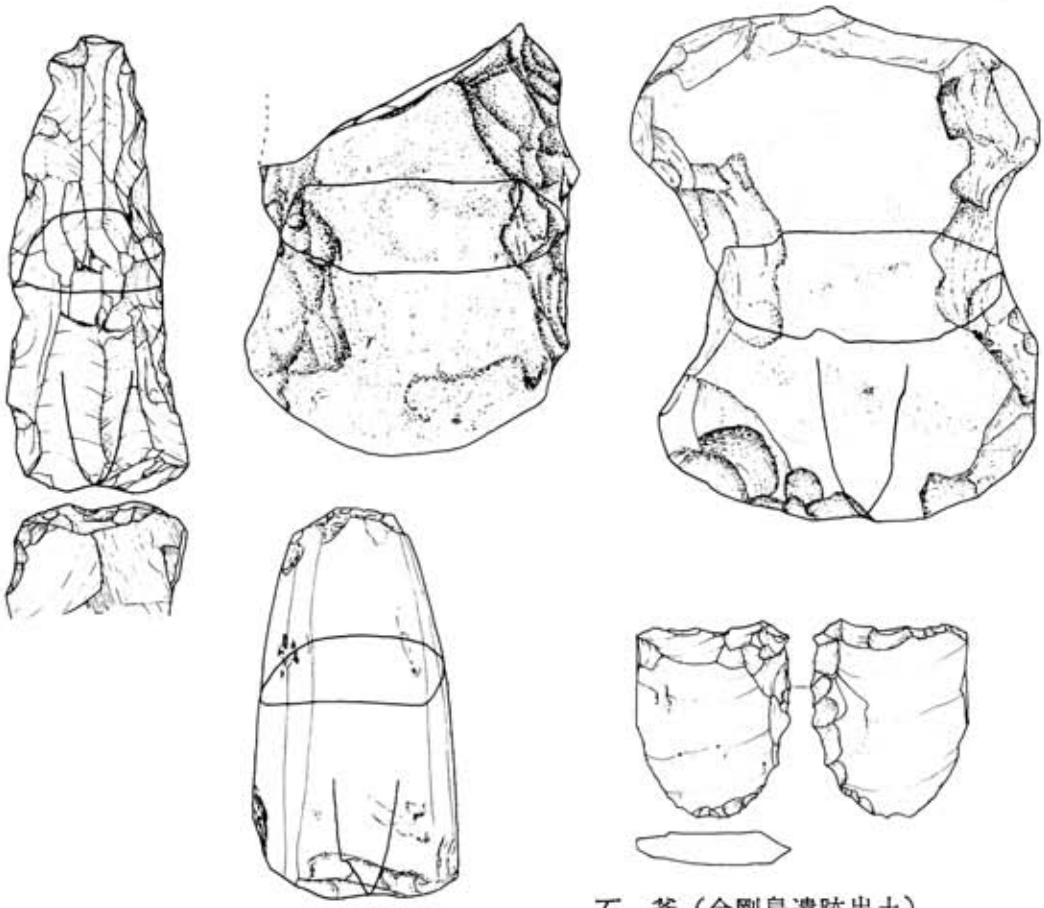




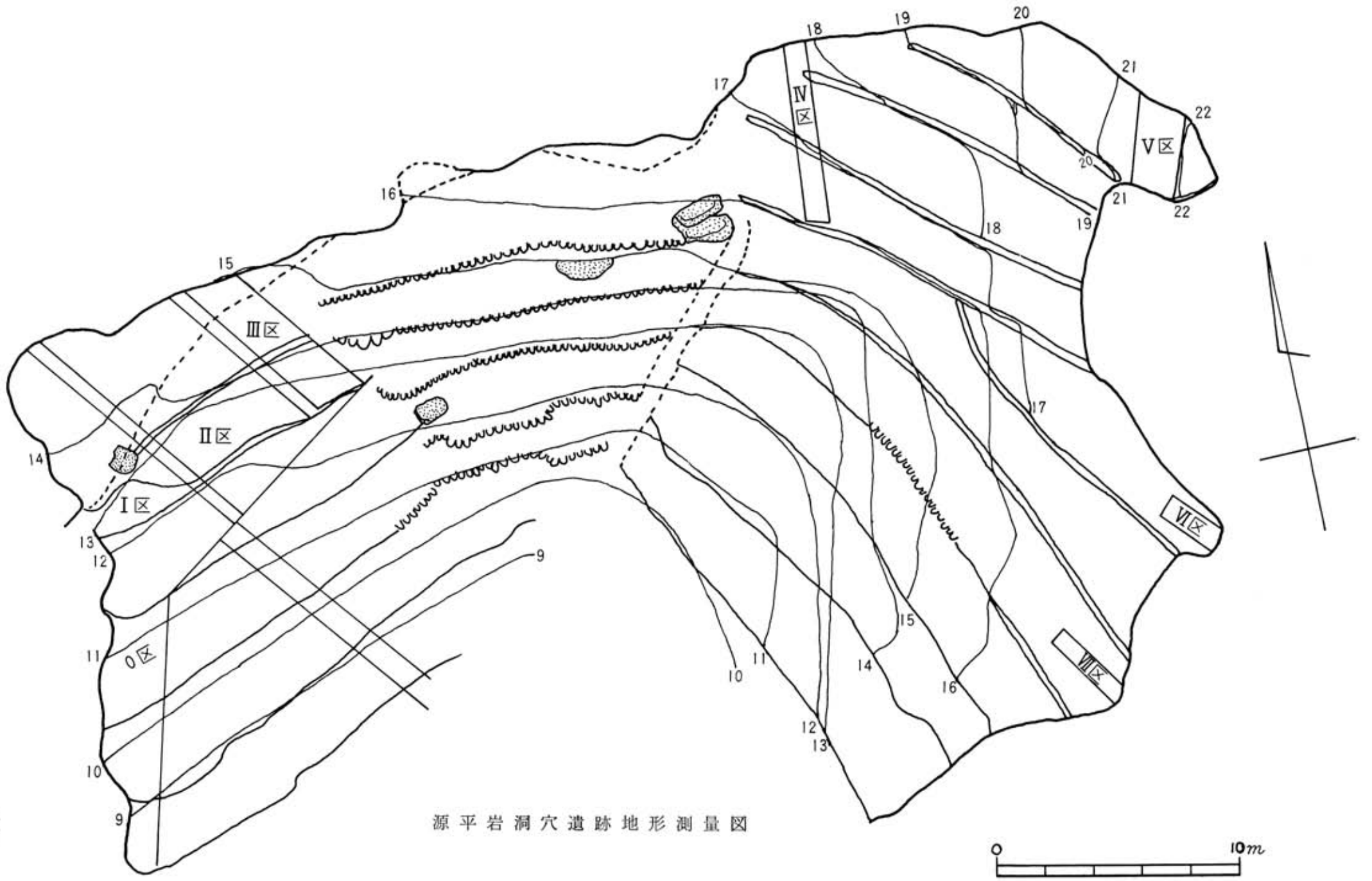
黒曜石製石鏃（金剛島遺跡土）



刃　器（金剛島遺跡出土）

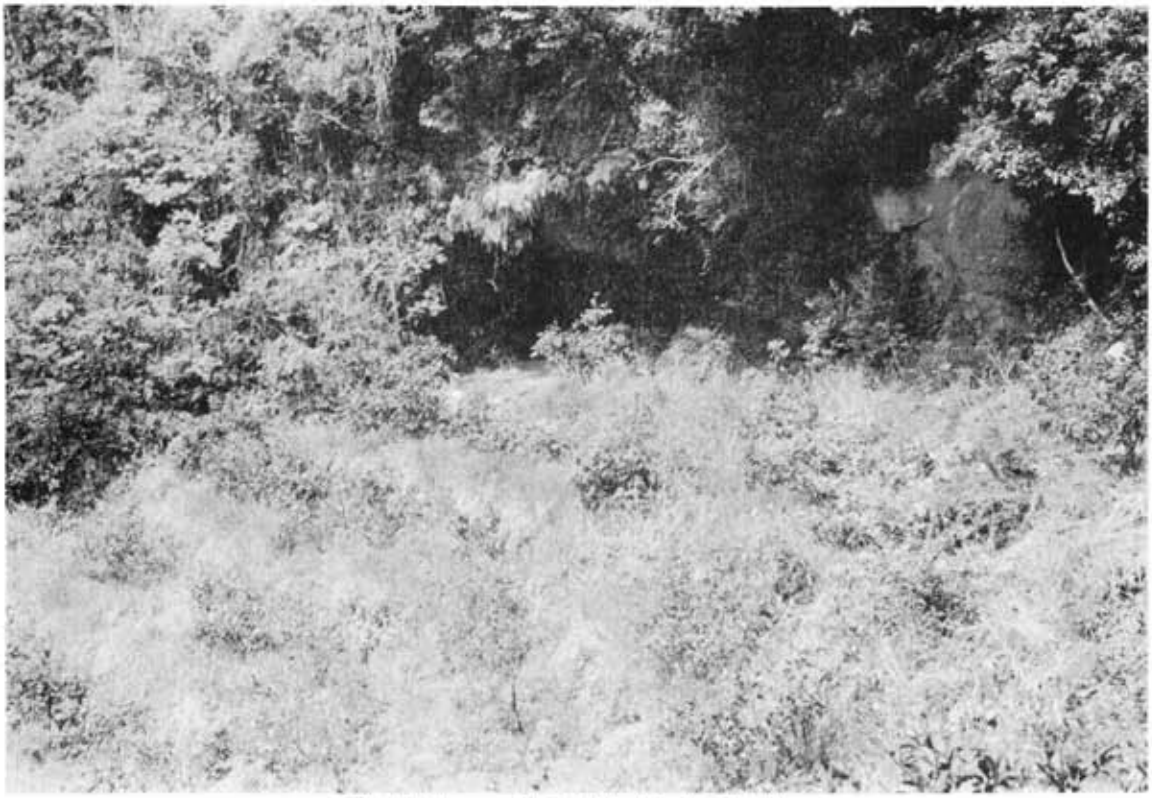


石　斧（金剛島遺跡出土）



源平岩洞穴遺跡地形測量図

金剛島より源平岩洞穴遺跡を望む



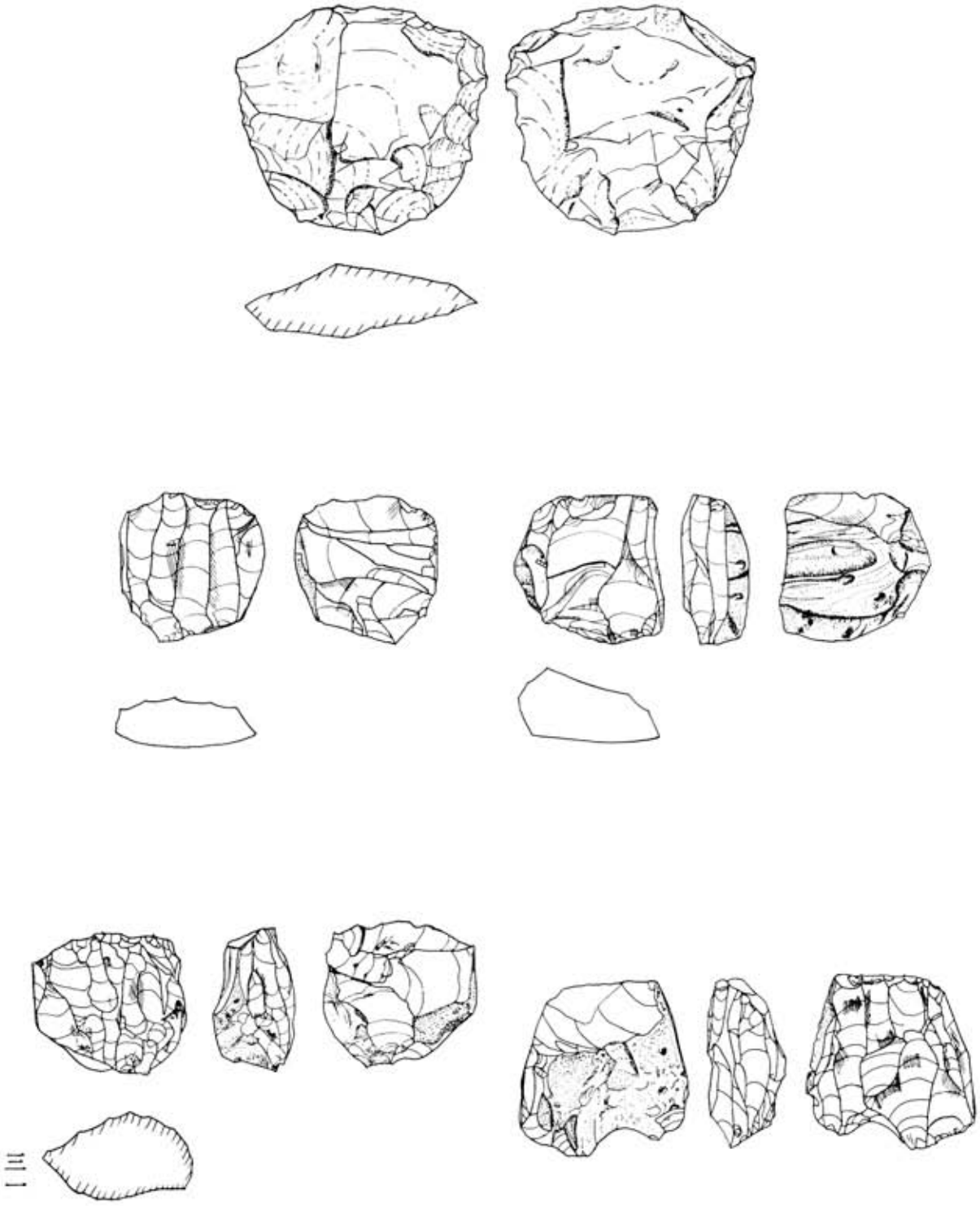
発掘前の源平岩洞穴遺跡

発掘調査終了後の源平岩洞穴遺跡

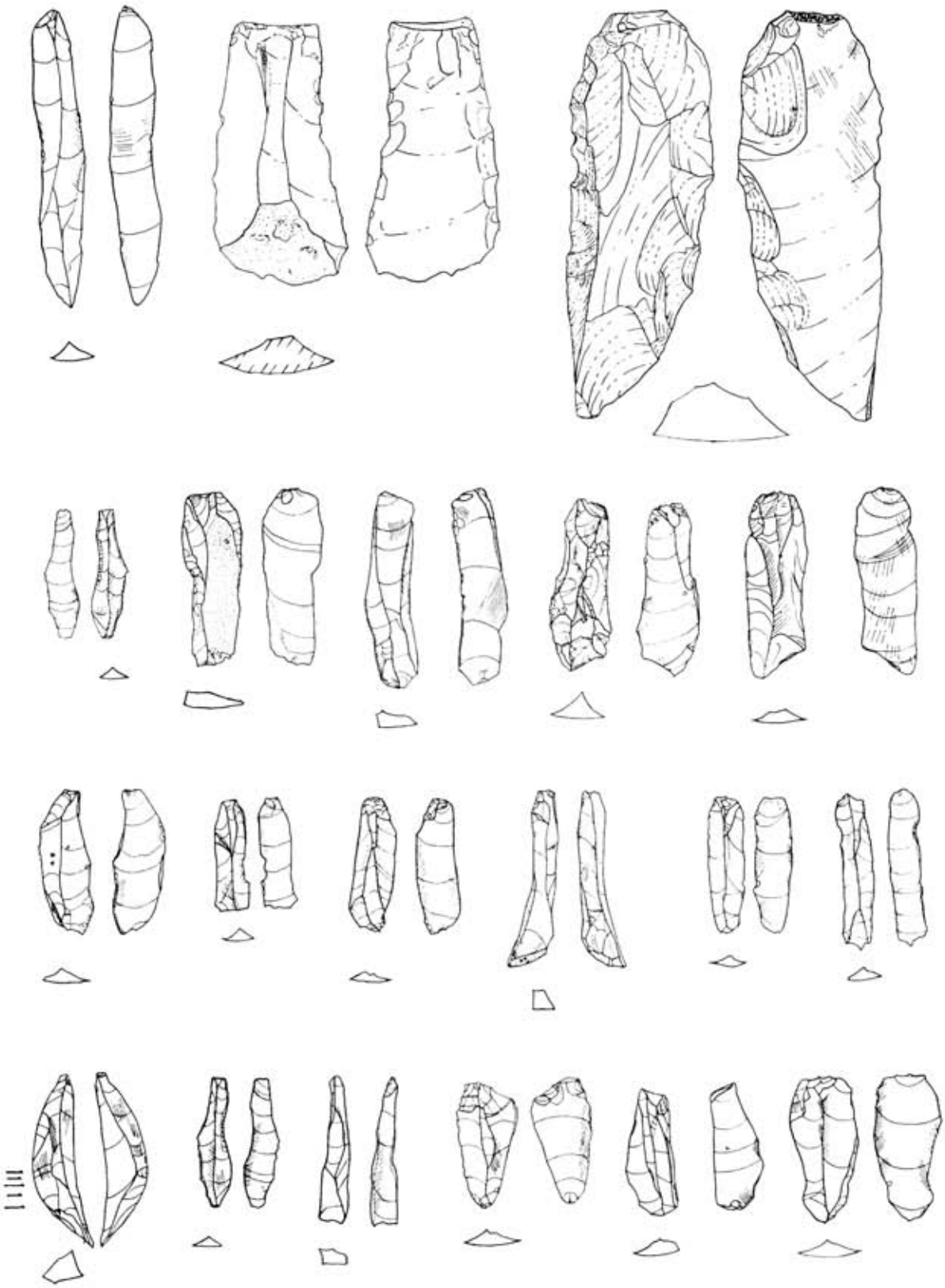
トレンチの貝層（源平岩洞穴遺跡）

トレンチの弥生期の貝層
（源平岩洞穴遺跡）

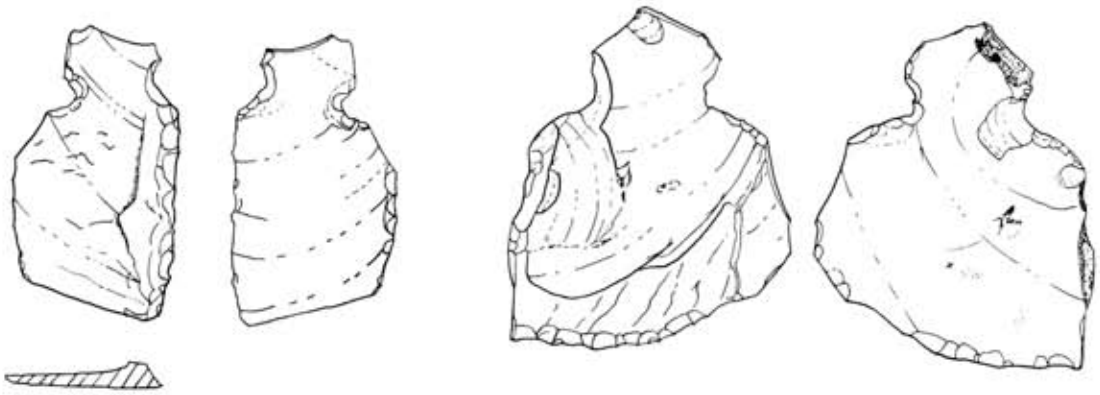
遺物及び貝殻の出土状況（源平岩洞穴遺跡）



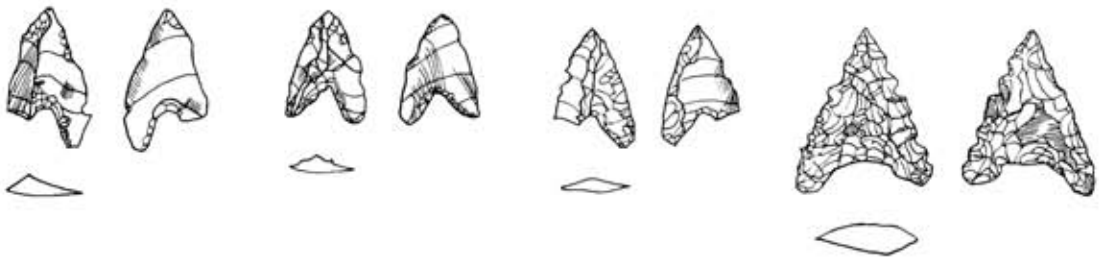
黒曜石製の不定形石核（源平岩洞穴遺跡出土）

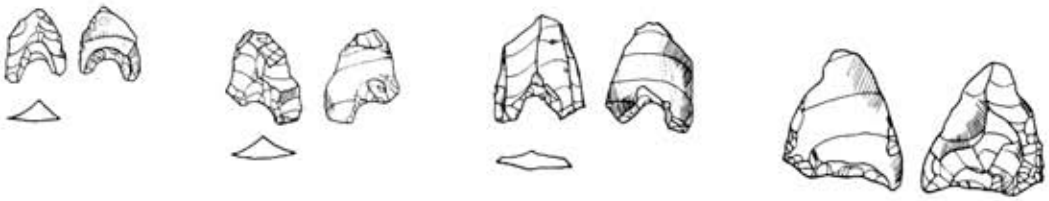


黒曜石製刃器（源平岩洞穴遺跡出土）

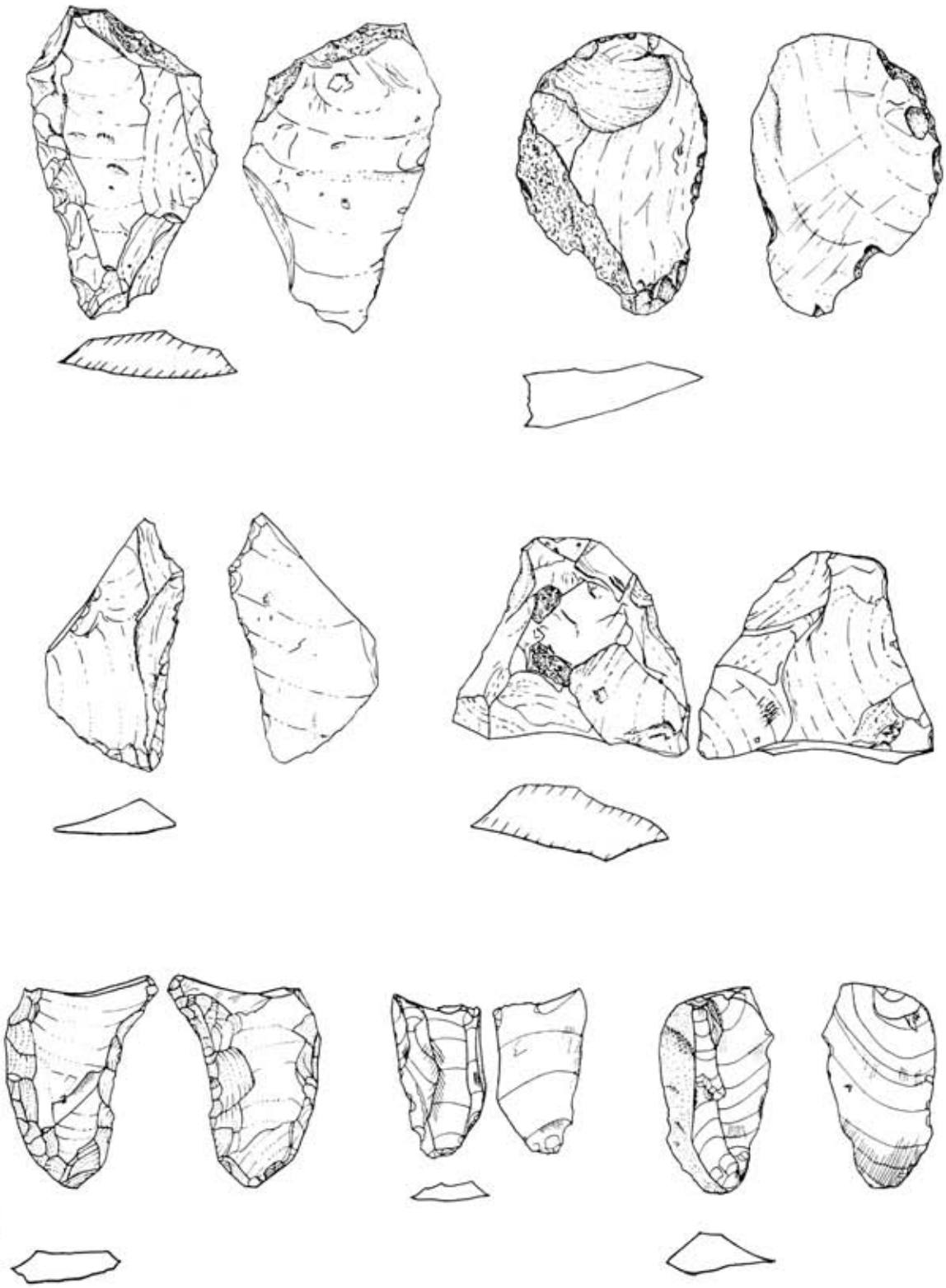


サヌカイト製石匙（源平岩洞穴遺跡出土）

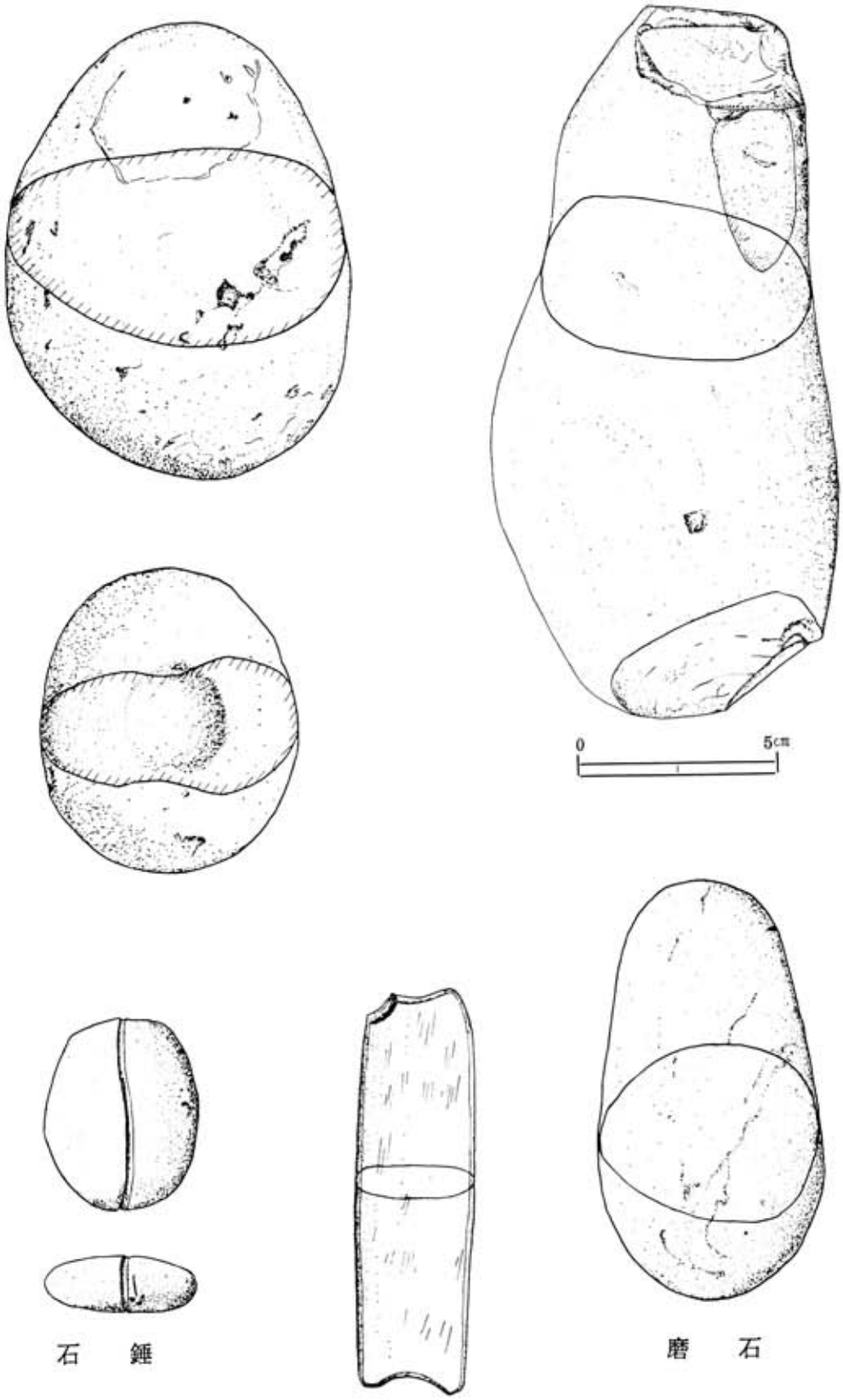




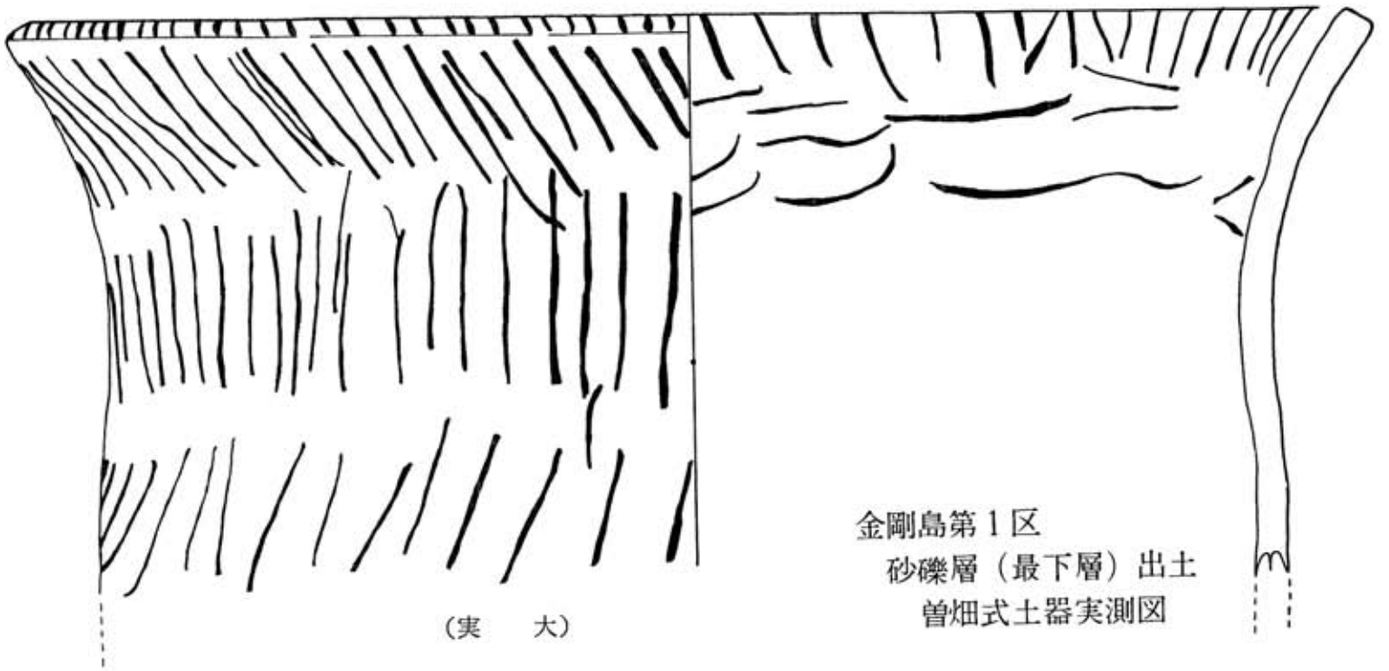
黒曜石製石鏃（源平岩洞穴遺跡出土）



刃　器（源平岩洞穴遺跡出土）

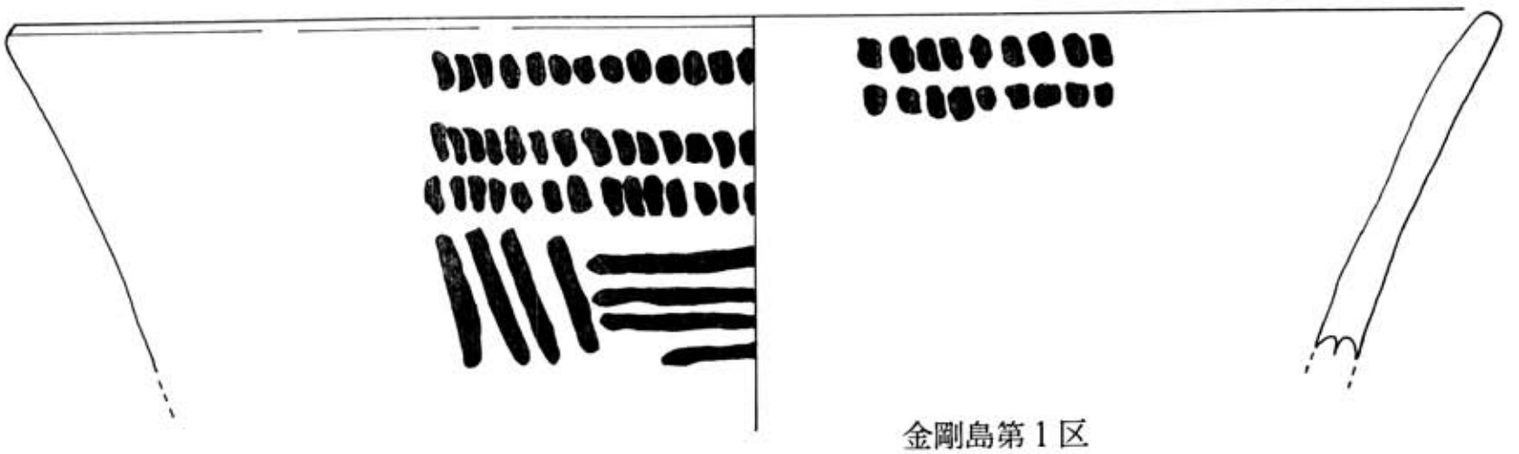


（源平岩洞穴遺跡出土）



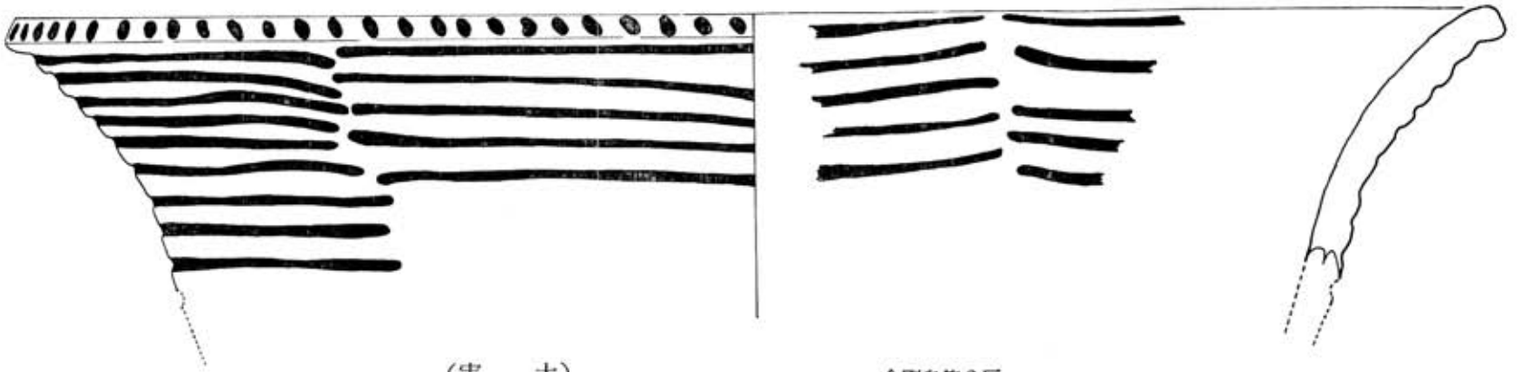
（実　大）

金剛島第１区
砂礫層（最下層）出土
曽畑式土器実測図



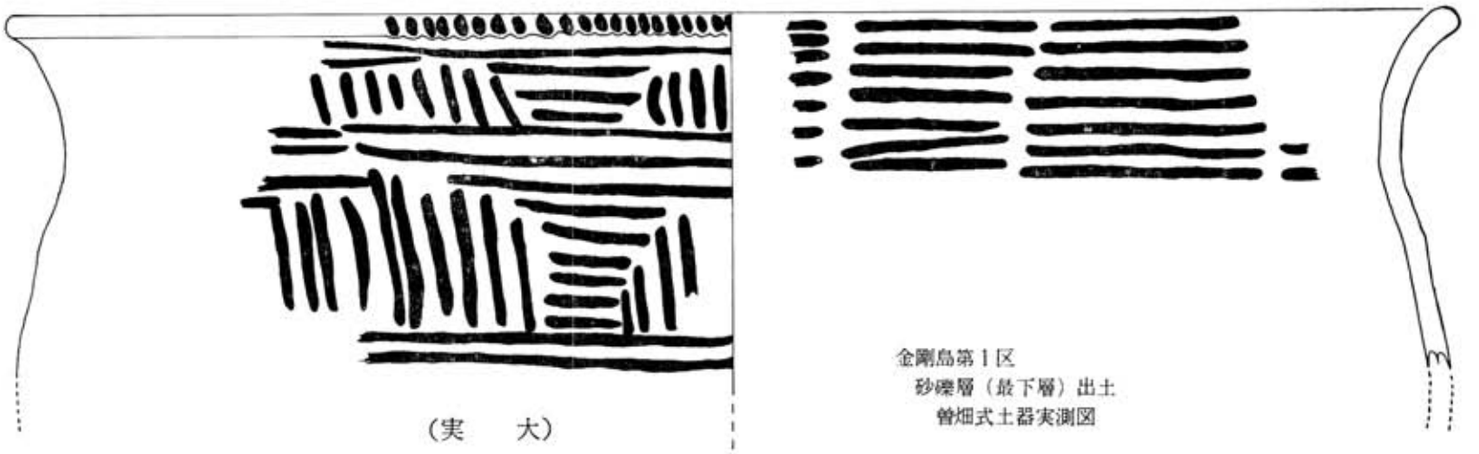
（実　大）

金剛島第１区
砂礫層（最下層）出土
曽畑式土器実測図



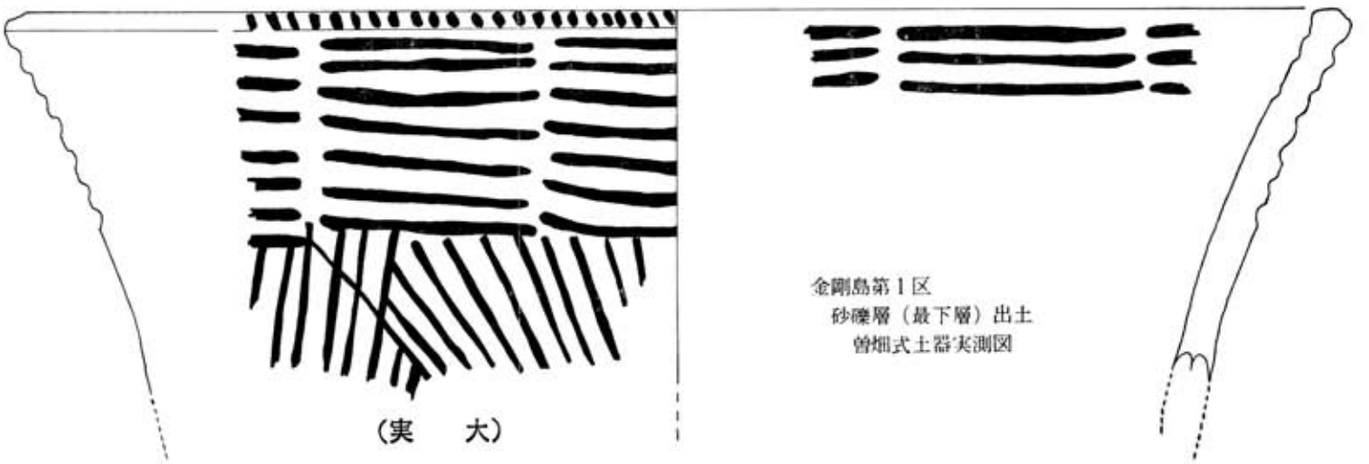
（実　大）

金剛島第２区
（砂礫層？）出土
曽畑式土器実測図



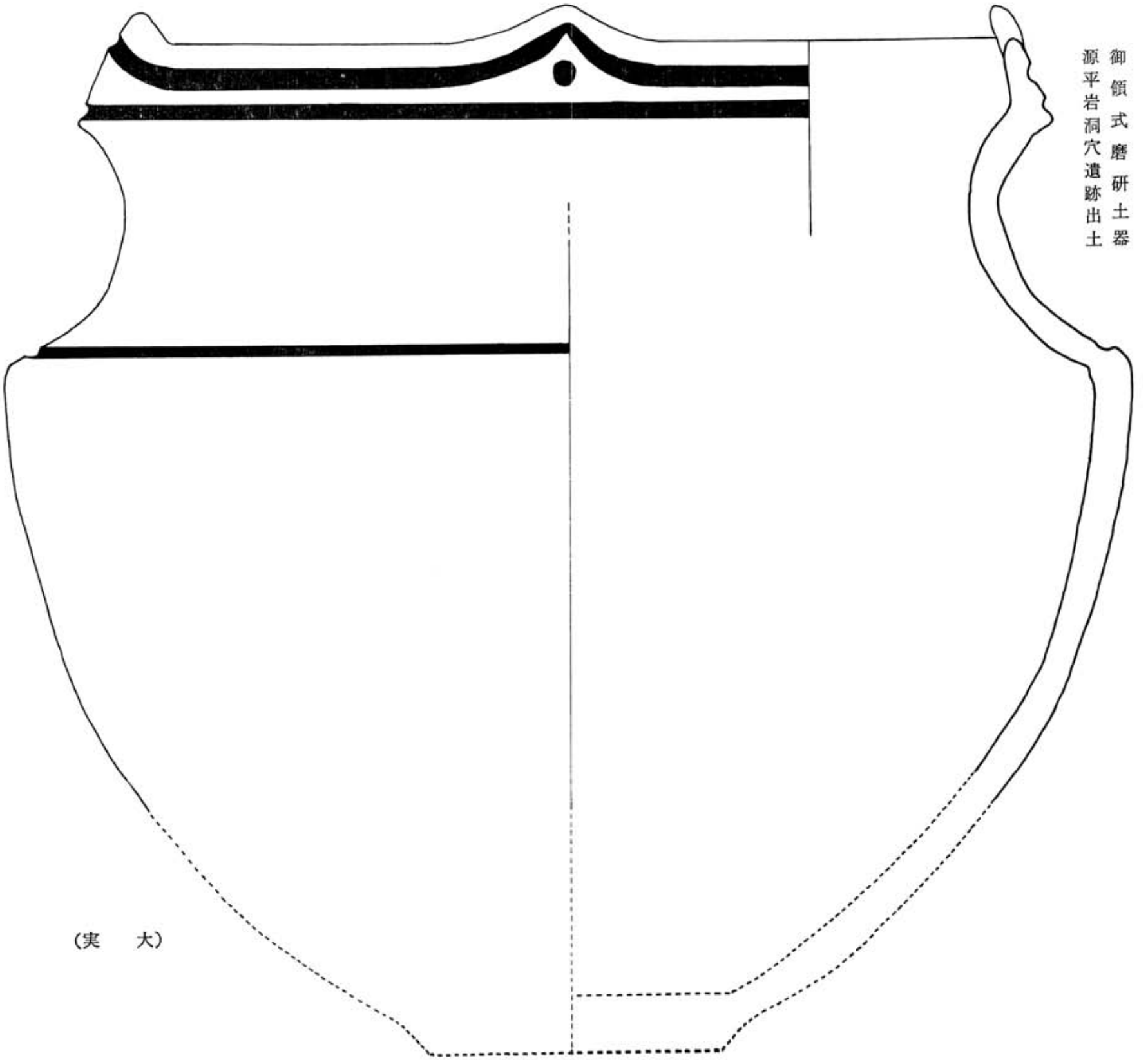
（実　大）

金剛島第１区
砂礫層（最下層）出土
曽畑式土器実測図

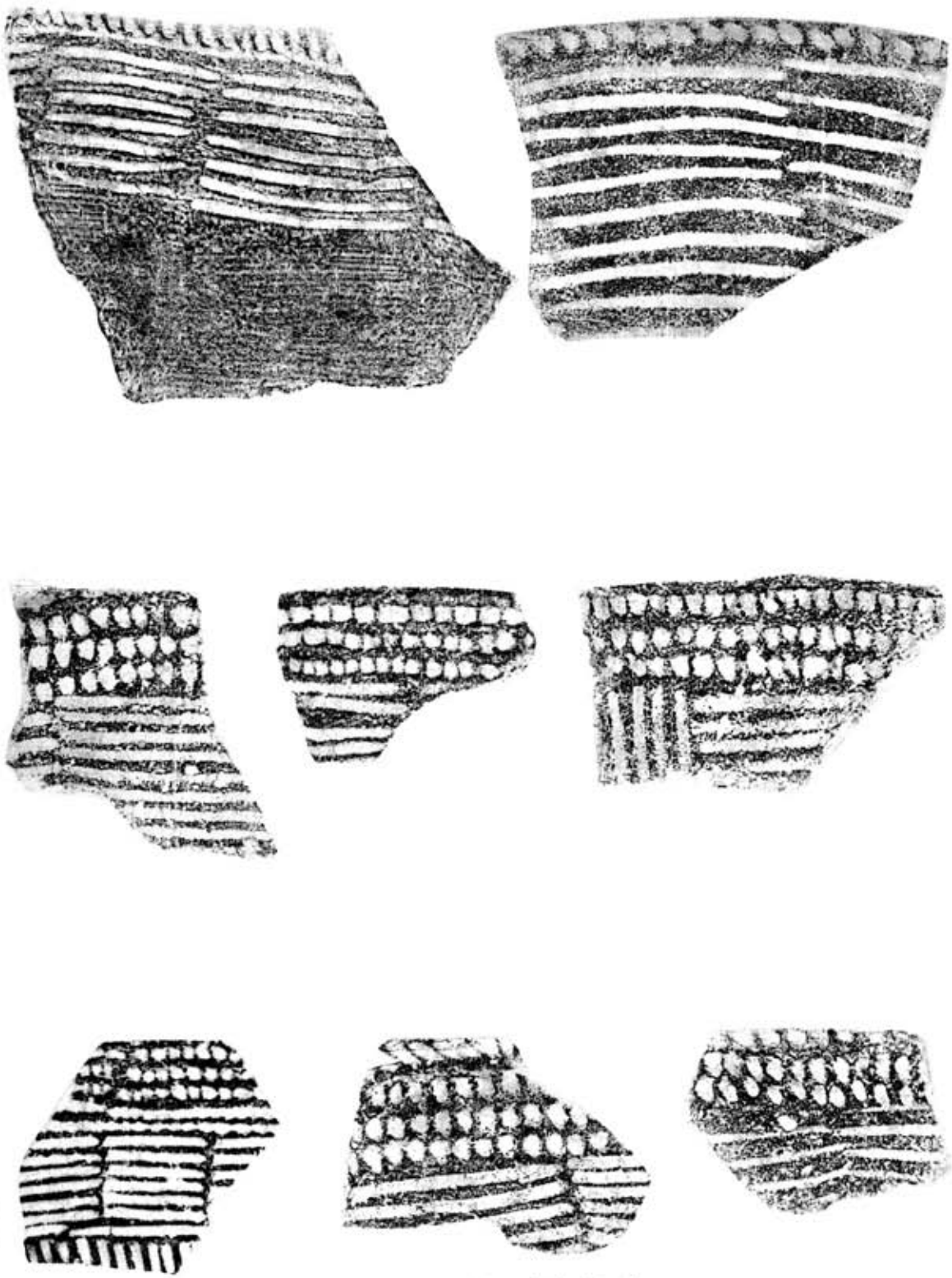


（実　大）

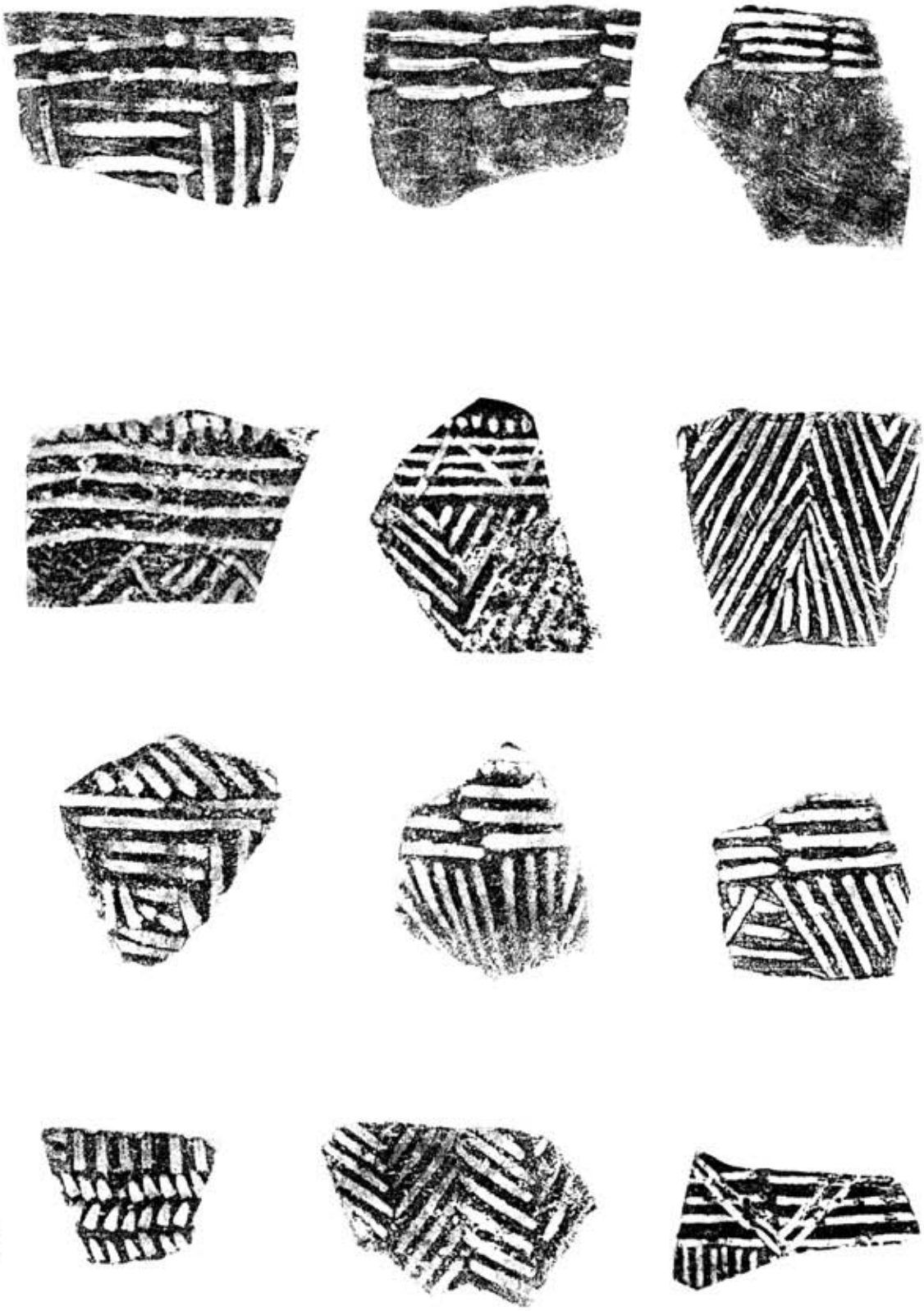
金剛島第１区
砂礫層（最下層）出土
曽畑式土器実測図



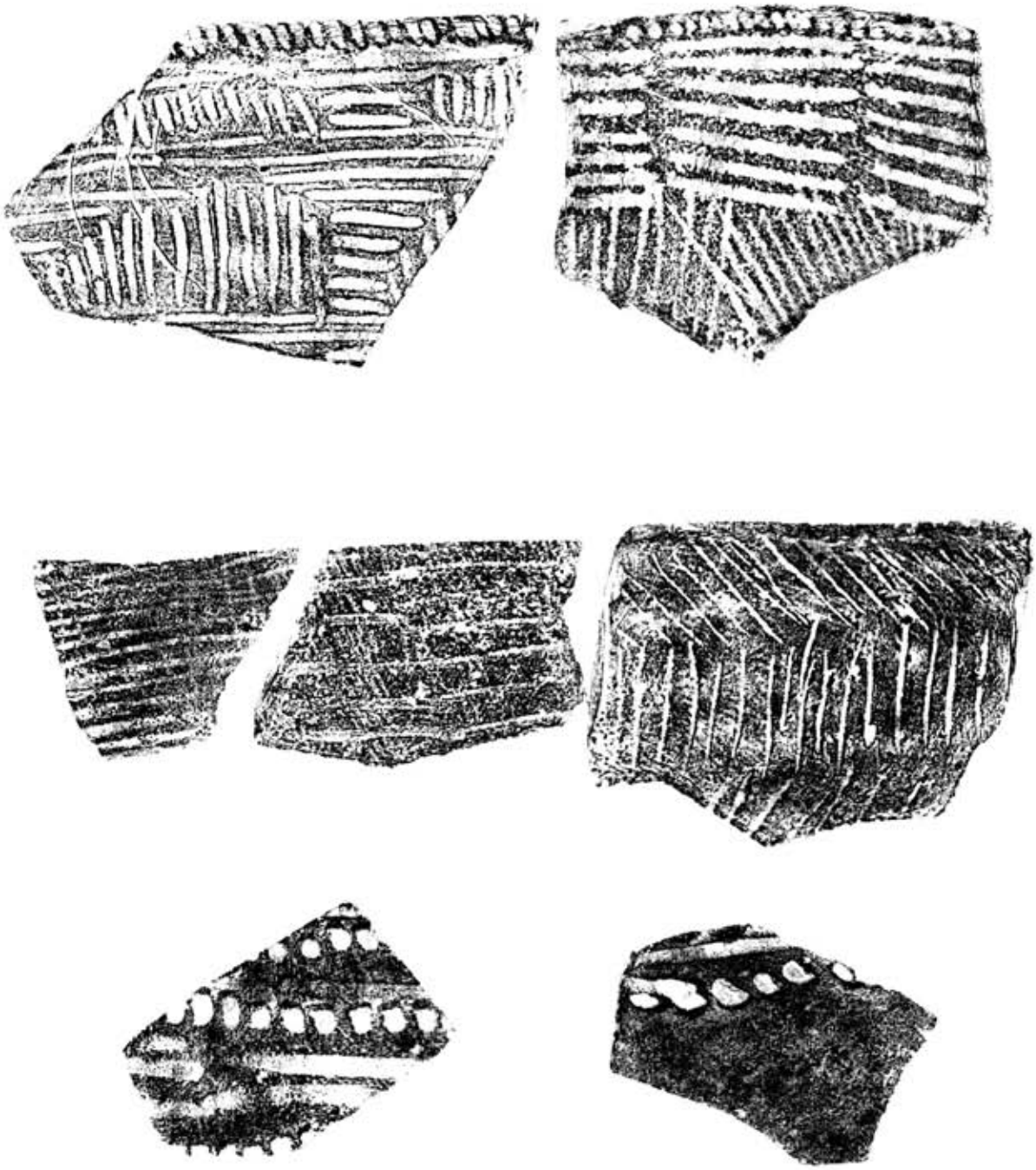
御領式磨研土器
源平岩洞穴遺跡出土



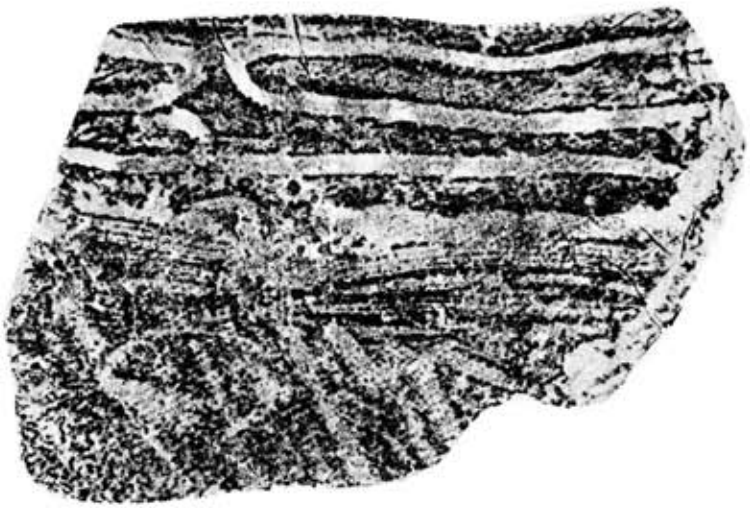
曽畑系土器（金剛島遺跡出土）

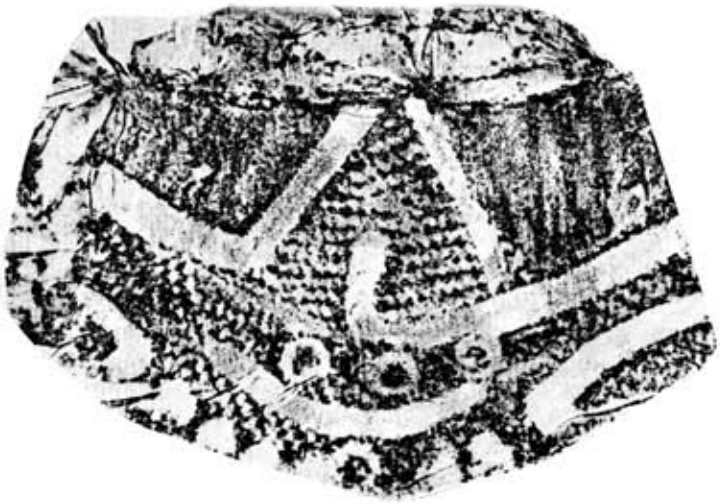


曽畑系土器（金剛島遺跡出土）

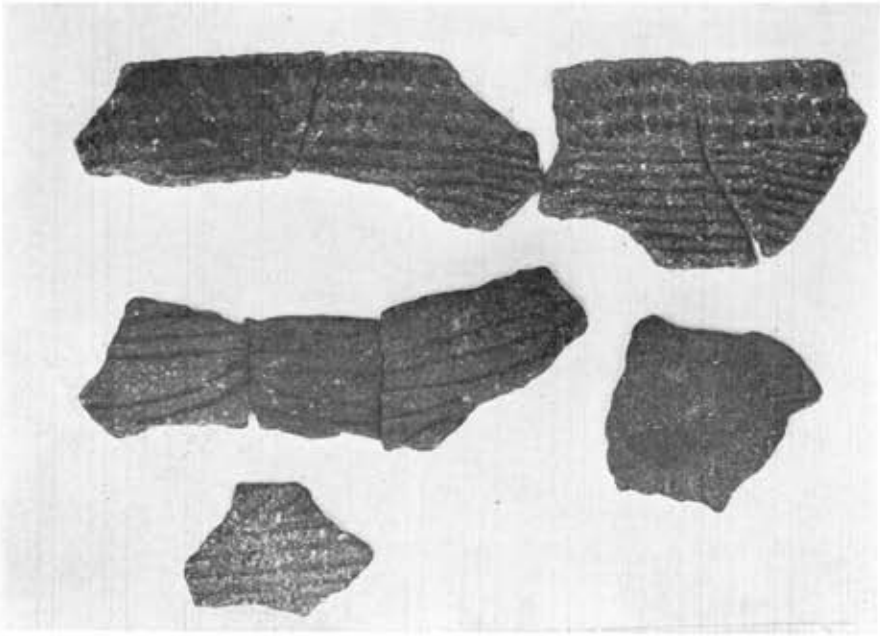


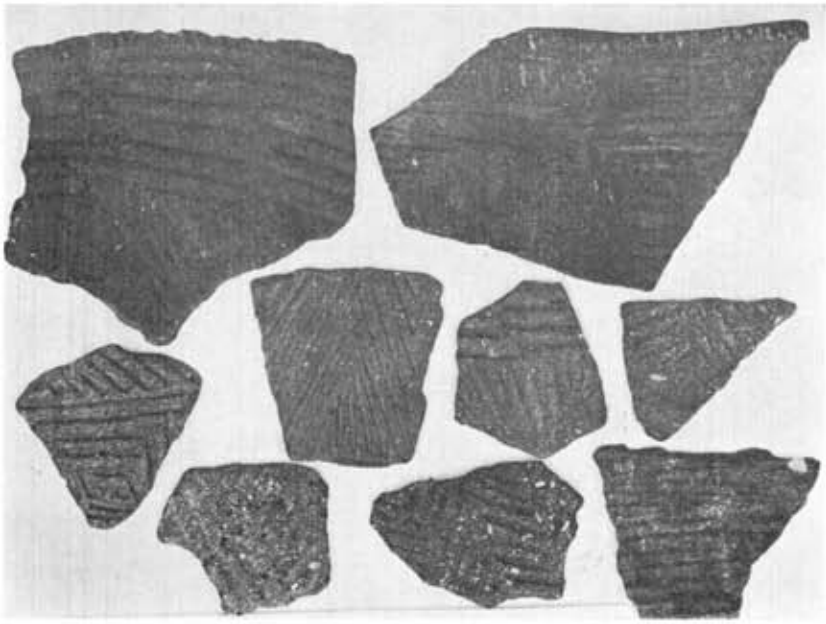
曽畑系土器（金剛島遺跡出土）



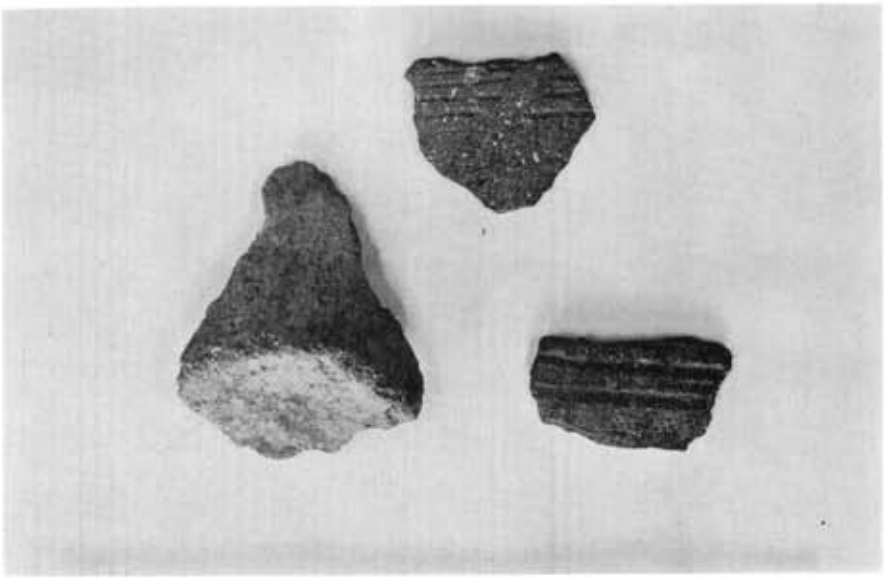


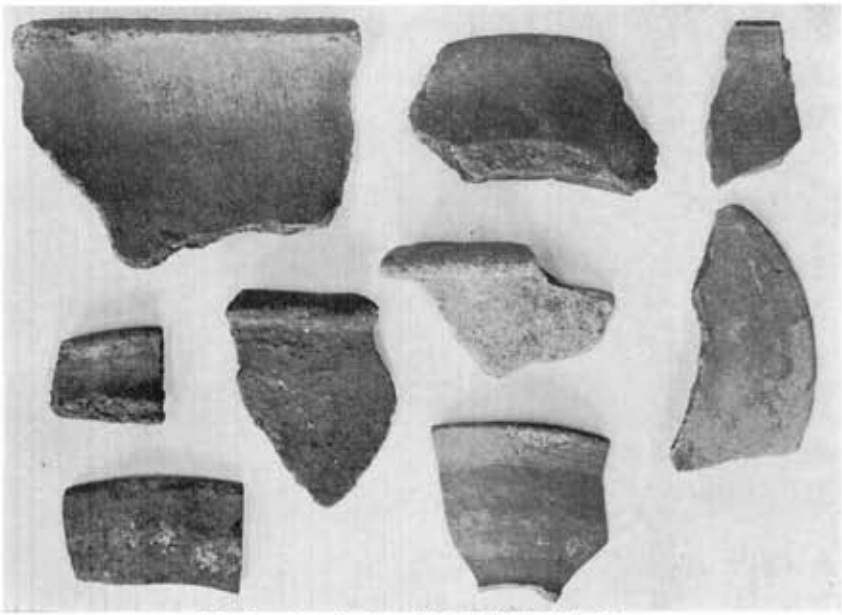
磨消縄文土器（源平岩洞穴遺跡出土）



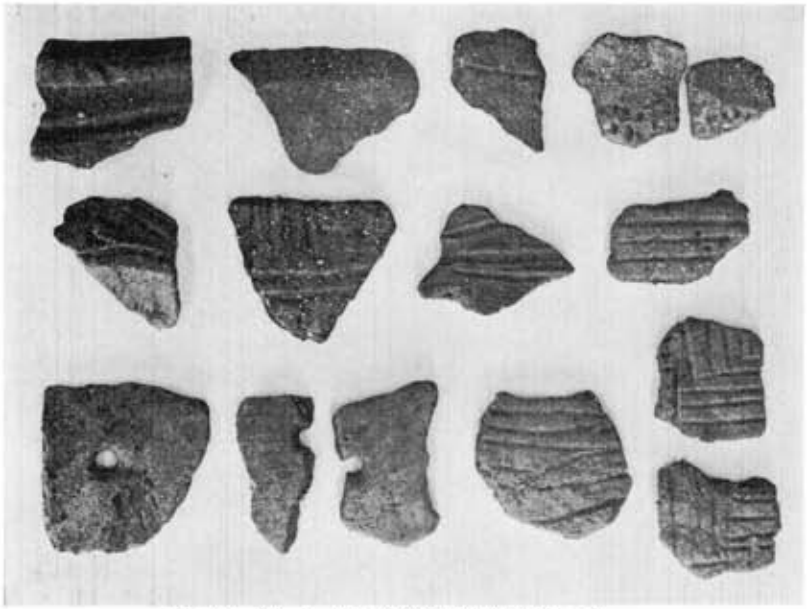


曽畑系土器（金剛島遺跡出土）



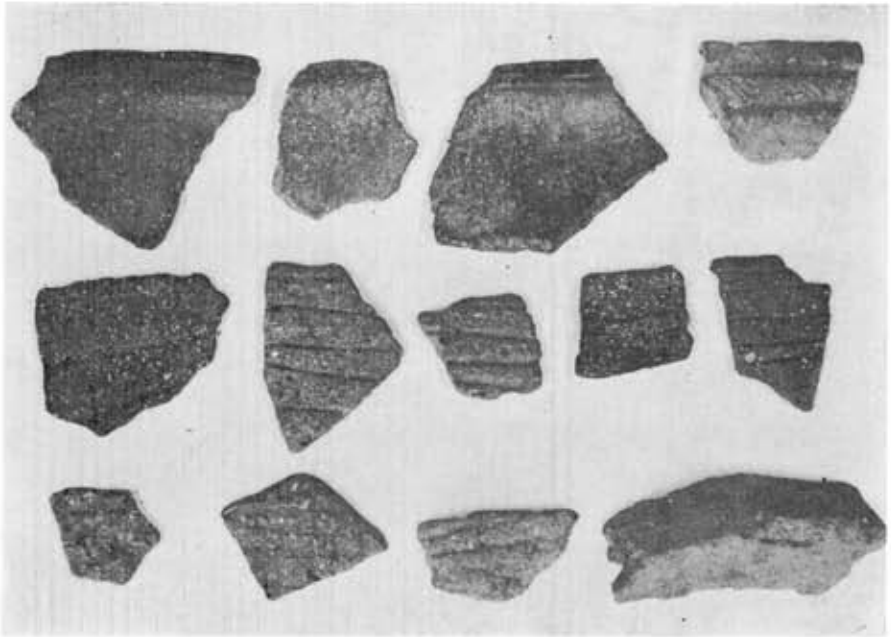


彌生式土器（金剛島遺跡出土）

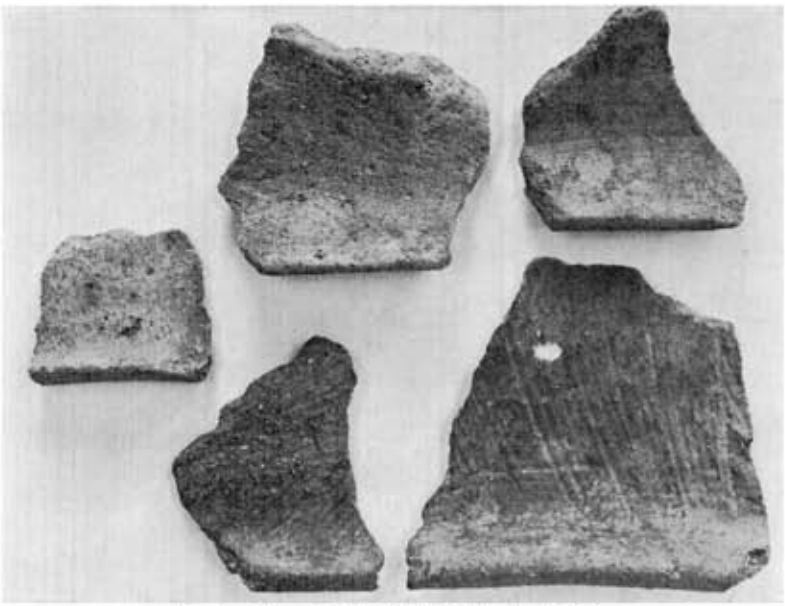


曽 畑 系 土 器（金剛島遺跡出土）

御 領 系 土 器（源平岩洞穴遺跡出土）



縄文時代後期土器（源平岩洞穴遺跡出土）



彌生式土器（源平岩洞穴遺跡）

佐賀県文化財調査報告書第二十三集

金剛島遺跡
源平岩洞穴遺跡 発掘調査概報

昭和四十八年三月二十日印刷
昭和四十八年三月三十一日発行

編集 佐賀県教育庁文化課
発行 佐賀県教育委員会
印刷所 佐賀県印刷局
佐賀市城内一丁目一―三九

佐賀県教育庁文化課